

平成29年度文部科学省委託事業

「専修学校グローバル化対応推進支援事業」

実施報告書

～観光サービス分野のための留学生定着支援事業～

一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

目 次

はじめに	2
一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 会長 岩本 仁	
一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 留学生委員長 中村 登	
第1章 事業概要	4
1. 事業の名称	
2. 実施期間	
3. 構成機関・構成員等	
4. 事業の内容等	
第2章 広報部会の取り組み	21
1. 活動概要	
2. 提携交渉の経緯	
3. 提携校の紹介	
4. 提携の内容	
第3章 教育コンテンツ部会の取り組み	26
1. 開発にあたり	
2. 活動概要	
3. コンテンツの設計	
4. コンテンツへの評価	
第4章 生活支援部会の取り組み	39
1. 活動概要	
2. 留学に関する課題	
3. 留学の課題への対応	
4. 主な活動（報告）	
5. 事例紹介	
第5章 就労支援部会の取り組み	44
1. 活動概要	
2. 就労に関する課題	
3. 就労に関する課題への対応	
4. 就職説明会 福専各	
第6章 今年度事業の取り組みによる成果と今後の展望	50
1. 今年度の取り組み成果	
2. 今年度事業を振り返って	
3. 東アジアの教育機関との連携について	
4. 教育コンテンツの開発について	
5. 今後の展開	
おわりに	52
記録類（会議議事録・アンケート用紙・チラシ）	53

はじめに
～実施報告書の刊行にあたって～

国においては、2017年3月に「観光立国基本計画」が閣議決定され、2016年に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」で制定された目標値2020年に年間訪日外客数4,000万人が、基本計画に盛り込まれました。

ここ福岡においては、2017年の博多港のクルーズ船の寄港回数が3年連続で国内最多となり、クルーズ客を含む訪日外国人数は年間200万人を上回っております。特に中国、韓国、台湾からの観光客が目立ち、全体の4分の3を占めております。一方で、急増する外国人観光客に対して、ホテル業をはじめとした観光サービス業界で働く人材の不足が、喫緊の課題となっております。

このような背景のなか、一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会では、文部科学省の委託を受け、観光サービス業界の人材確保のため、中国、韓国、台湾の留学生を受け入れ、専門学校において実践的な職業教育を行い、観光業界への雇用定着を支援する取り組みを始めました。

文部科学省の委託を受けた留学生支援事業は今期で7年目となりますが、留学生数は年々増加し、企業からの人材需要もますます高まっております。これからも継続して取り組みを重ねていくとともに、一人でも多くの留学生が地元企業に就職できるよう結果を求めていきたいと思っております。この一步一步の積み重ねが、ひいては日本社会の課題解決や福岡の国際社会づくりにつながっていくものと考えます。

最後に事業の推進にあたりまして、文部科学省、福岡県、福岡県経済界、県内専修学校・各種学校ほか様々な方面から多大なるご支援・ご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

平成30年3月

一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会 会長 岩本 仁

はじめに
～専修学校グローバル化推進支援事業について～

昨年より、留学生委員会において「平成29年度 文部科学省委託事業 専修学校グローバル化対応推進支援事業」の受託へ向け協議を重ねてきました。

6月の委員会で、ターゲット国を中国・韓国・台湾と定めること、分野を観光サービス業とすることなどの方針が確定されました。さらに、具体的な取り組みに向けて協力団体を決定し、この事業の申請、受託を経て、昨秋より事業の実施に取り組んでまいりました。

平成29年度は、ターゲット国を中国に絞り、事業内容を大きく4つの分野(広報部会・教育部会・生活支援部会・就労定着支援部会)に分け、事業を進めております。

広報部会では、優秀な留学生の掘り起こしのため、中国の大手教育機関との包括的契約を結び、福岡の専門学校へ編入学するための体制作りを進め、教育部会では、留学生向けにオンラインを使った教材を開発するために、本年度は教育内容の骨子、要件整理を行いました。生活支援部会では、教職員研修(在留資格、就労ビザ)と学生の在籍管理システムの開発に向けた調査研修を実施。また、行政書士による相談窓口を開設し、各種手続きの法的支援も行っています。就労・定着支援部会では、留学生の就職説明会を実施し、企業人事担当者と留学生の交流や情報交換を行うことにより国内企業とのマッチングを目指します。

これらの事業の準備段階から実施にいたるまで、産・官・学の多くの機関の方々のご指導、ご協力をいただきました。この場を借りて、御礼を申し上げます。われわれ留学生委員会委員一同、この事業の実施によって福岡県の専修学校のグローバル化に寄与できればと願っております。

平成30年3月

一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

留学生委員会委員長 中村 登

第1章 事業概要

1 事業の名称

平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」

取組内容：観光サービス分野のための留学生定着支援事業

2 実施期間

平成29年11月29日～平成30年3月14日

3 構成機関・構成員等

(1) 教育機関

	名称	役割等	内諾	都道府県名
1	大村美容ファッション専門学校	委員長	諾	福岡
2	九州英数学館	副委員長	諾	福岡
3	専門学校コンピュータ教育学院	委員	諾	福岡
4	学校法人麻生塾	委員	諾	福岡
5	大原昴自動車・スポーツ専門学校	委員	諾	福岡
6	専門学校東京国際ビジネスカレッジ福岡校	委員	諾	福岡
7	専門学校共生館国際福祉医療カレッジ	委員	諾	福岡
8	専門学校九州スクールオブビジネス	委員	諾	福岡
9	専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ	委員	諾	福岡
10	専門学校国際貢献専門大学校	委員	諾	福岡
11	福岡外語専門学校	委員	諾	福岡
12	福岡国土建設専門学校	委員	諾	福岡

(2) 企業・団体

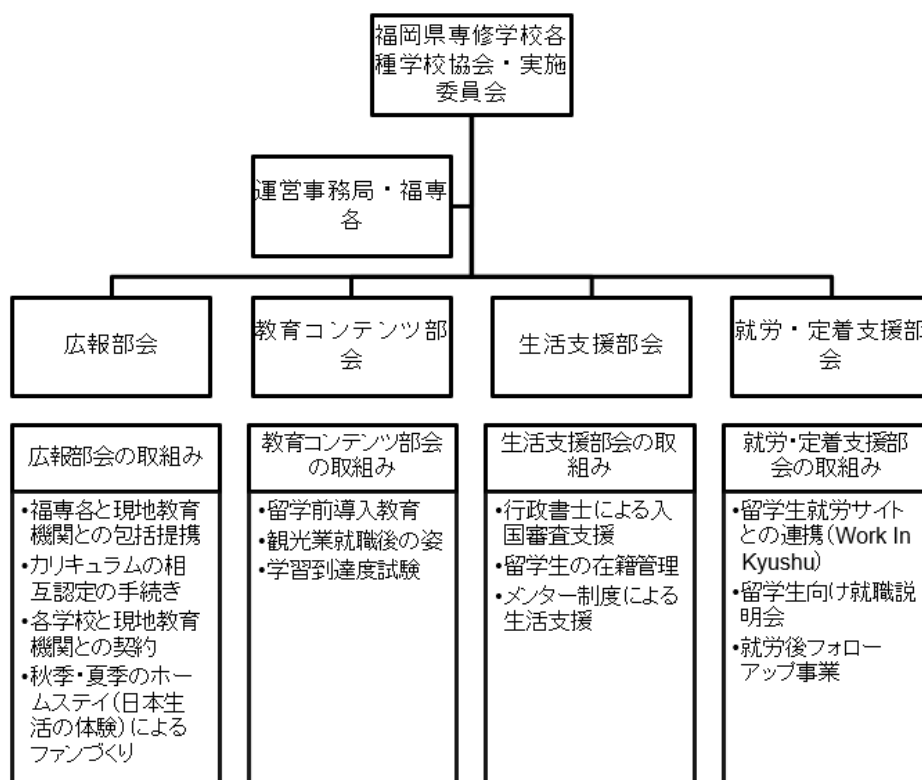
氏名		所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	三大寺秀豊	一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 事務局長	統括調整	諾	福岡
2	立崎 和寿	一般社団法人九州経済連合会 観光・サービス産業部長	委員	諾	福岡
3	出水 泰輔	福岡商工会議所地域振興部 地域振興グループ長	委員	諾	福岡
4	伊東 望	公益社団法人福岡県雇用対策協会 事務局長	委員	諾	福岡
5	笠 清太	三好不動産株式会社 執行役員	委員	諾	福岡
6	進藤 千尋	桜交流企画 代表	委員	諾	福岡
7	財津香壽子	キャリアサポート・オフィス一歩 代表	委員	諾	福岡
8	島崎 明	一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 監事	委員	諾	福岡

(3) 行政機関

氏名		所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	奥原 淳	福岡県企画・地域振興部総合政策課 事務主査	オブザーバー	諾	福岡
2	藤本 和史	福岡市総務企画局企画調整部 企画課長	オブザーバー	諾	福岡

(4) 事業の実施体制 (イメージ)

- 一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 (以下、福専各という。) 内に本事業の意思決定機関として実施委員会を設置する。
- 実施委員会は、協会の役員会のガバナンスの元、事業の統括、調整の役目を担う。
- 福専各事務局は、実施委員会を補佐し、事業の事務総務、連絡調整を担う。
- 実施委員会の下部には、本事業の実務を担う4つの部会を配置し、取り組みを推進する。
- 部会には部会長を配置し、実施委員会での決定に従い、各々の担当分野の事業推進を管理する。



4 事業の内容等

(1) 事業の趣旨・目的等について

i) 事業の趣旨・目的

- 福岡を中心とする九州への外国人観光客の8割以上が、中国・韓国・台湾からの旅行者で占めている。
- 観光業は他の分野と同様に人材が不足。地域全体の観光資源のマネジメント（いわゆるDMO人材）や観光地、宿泊施設、コンベンション施設などにおいて、中核的なサービス提供人材など幅広い職域において、人材ニーズがある。
- 特にこの分野はグローバルビジネスでの接点となる業種であり、いち早くグローバル化で対応することが日本の企業のグローバル化につながる。
- 今回の留学生定着支援事業では、観光サービス分野にて活躍し、将来はマネジメントや自国での人材育成を担えるような、優秀な人材を掘り起こし、留学を促すために、学校間の垣根を越え、募集から就労・定着までを確実に、安定的に支援できる仕組みを考え、3か年の事業期間を有効に活用し、包括的な仕組みを構築する。
- また、事業の継続性を担保するため、海外人材を活用するビジネスとの連携を図り、受入側のすそ野を広げることで、海外人材の定着率向上を目指す。

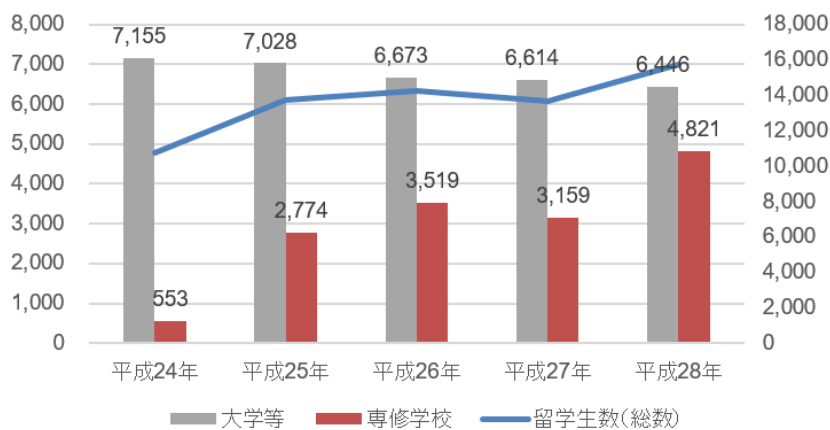
ii) 事業の概要

- 広報部会の取り組み
 - (1) 対象国・地域の手教育機関と留学に関する包括的な提携を結び、募集、留学前の日本語教育に連携して取り組む体制をつくる。
 - (2) 欧米では一般的な民泊型のホームステイによる休暇期間の短期留学や学生交流事業を通じ、日本ファンを創造する。
- 教育コンテンツ部会の取り組み
オンラインによる日本語・ビジネス教育とその理解度テストなどをおこない、短期間でN2以上の語学力を習得する。
- 生活支援部会の取り組み
 - (1) 各校が個別に対応している入管手続き、在留準備等をサポートする仕組みを検討、構築し、事務負担の軽減を図る。
 - (2) 在留人材によるメンターを育成し、生活面、就労準備、定着の支援に取り組む。
- 就労・定着支援部会の取り組み
既存の留学生就職支援の取り組み（就職説明会や企業紹介サイト等）との連携を図り、産学官民一体での連携体制を構築する。

(2) 戦略的に外国人留学生の受入れを進める分野並びに国（地域）名について

- 5000名近い留学生の受入れの地である
 - (1) アジアとの玄関口として栄えてきた九州・福岡県では、東京、大阪などの大都市圏に次いで多くの留学生を受け入れてきた実績を持っている。
 - (2) 推計では4800人を超える留学生が専修学校に在籍しており、大学と並んで重要な留学先となっている。
 - (3) これは従来から県内の専修学校が積極的に留学の受入れを推進してきたことが背景にあり、福専各における留学生向けの活動の成果ともいえる。
- 観光サービス分野に取り組む理由
 - (1) クルーズ船、航空機（福岡空港、北九州空港）と複数の入国口を持つ福岡県は、福岡都市圏だけでも年間で250万人の入国者数がある。
 - (2) その結果、ホテルの稼働率も83.2%となり、受け皿づくりの増加が求められている。
 - (3) 阿蘇、湯布院、別府、長崎、熊本、鹿児島、宮崎等の観光地を控えており、海外からの旅行者向けのサービスの拡充が課題となっている。
 - (4) 九州の観光サービス業の主な顧客である中国、韓国、台湾（約85%）から優秀な人材を受入れ、育成し、当該分野に就労することで、来日観光客へのサービスを充実し、地域経済の発展に寄与することが期待できる。

福岡県外国人留学生数推移



※専修学校の留学生数は、留学生数から大学等、日本語教育機関の学生数を差し引いた推定の数
 出所：独立行政法人日本学生支援機構・福岡県留学サポートセンター運営協議会

- 福岡・九州地域は従来からアジア人材を多く受け入れている一方、人材不足解消、アジアの経済を取り込み地域経済に発展させるための方策を多く打っている。
 - (1) 九州地域戦略会議の取り組み

九州地域戦略会議（広瀬大分県知事、麻生九州経済連合会会長）は、会が人材を活用した経済の活性化を提言。留学生の活用、利便性の向上を図ることを提言。

本事業はこの活動の事務局である九州経済連合会と連携して活動をおこなう。

3. 外国人留学生など外国人材活躍推進のための特区提案



(2) 福岡市の活動

福岡市はグローバル創業都市を掲げ海外人材の積極的な活動を政策として立案、実現している。



(3) 本年度実施する具体的な取組

① 広報部会

i) 概要

- 福岡県専修学校各種学校協会が中核となり、中国・韓国・台湾の地域中核校と観光・サービス分野の人材確保を前提とした留学生交流に関する包括的提携の仕組みを構築する。
- 中国・揚州大学とのコネクションを活かし現地の高校生募集の仕組みのなかに福岡留学のルートを設定する。それを実現するための包括契約を福専各と大学間で結ぶ。これをベースに中国の他機関、韓国、台湾に展開する福岡方式を作る。
- 初年度は中国・揚州大学とのパイロット提携を軸に開始。他の中国地域、台湾、韓国へ順次拡大する。
- 募集の仕組み：現地大学のコースの一つとして留学コースを組み入れる。対象は高校生と在校生
- ねらい：日本への関心が高く学習意欲の高い学生を選抜する仕組みをつくる。
- 活動のポイント：将来的な教育カリキュラムの連携、日本滞在の支援プログラムの提供を包括的に組み合わせ留学提携体制を強固にすることで日本留学の質を上げる。
- また、本事業の参加各校は、パイロット校と個別に留学生の受入れに関する契約を取り交わすが、本プロジェクトでは、契約交渉・事務手続の支援をおこなうことで、手続きに関する負担の軽減を図る。
- 将来的には、この包括的提携は、海外の教育機関と日本の専修学校の単位互換制度、教育ノウハウの交換などを見据えており、真の専門教育のグローバル化を目指す。
- 休暇期間を活用したホームステイ事業では、日本の民泊型のホームステイ事業を展開する事業者と連携し、福岡県下にて積極的に交流を促進する地域・自治体へのショートステイやサマースクール事業に取り組む。結果、日本の生活や文化に親しむことにより、日本のファンを増やす。

ii) 具体的活動

- 初年度は揚州大学との提携交渉プロセスを通じて仕組みの課題を洗い出し、次期以降の本格的な活動に活かす。課題を洗い出す方法は以下のとおり。
 - (1) 包括提携協議にかかるプロセスを通じて発生した課題を広報部会で整理する。
 - (2) 揚州大学への提携後のインタビューにて、海外からみた日本の専門学校との提携の課題を明らかにする。
- 平成30年度以降は、台湾、韓国へ交渉域を拡大し、提携校数はKPI値を上回ることを目指す。
- 提携の質の評価をおこなうために、留学を検討する学生やそれを支援する現地学校の教員へのヒアリング調査（一部、アンケート調査を含む）をおこない、他の地域・

学校への展開の際の改善や提携提案の基礎資料等に活用する。

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
対象国の拡大	中国	中国、台湾	中国、台湾、韓国
提携校	1校	2～3校	5校
生徒数（KPI）	50名	200名	500名
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 福岡県内専修学校の留学情報の収集、宣伝資料作成 ● 中国パイロット校（揚州大学）との包括提携（交渉と実現） ● 日本側各校とパイロット校との個別契約 ● 学生募集の協業体制構築、募集活動開始（学生アンケートなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台湾・中国に提携校を拡充 ● 3月～4月、7～9月、12～1月学生応募 ● 休暇期間のホームステイ事業の開始 ● カリキュラム相互認証などの協議開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 韓国に提携校を拡充 ● 年間を通じた募集体制を確立 ● 体験授業、ホームステイ事業の定着 ● 提携校を観光サービス分野以外に拡充

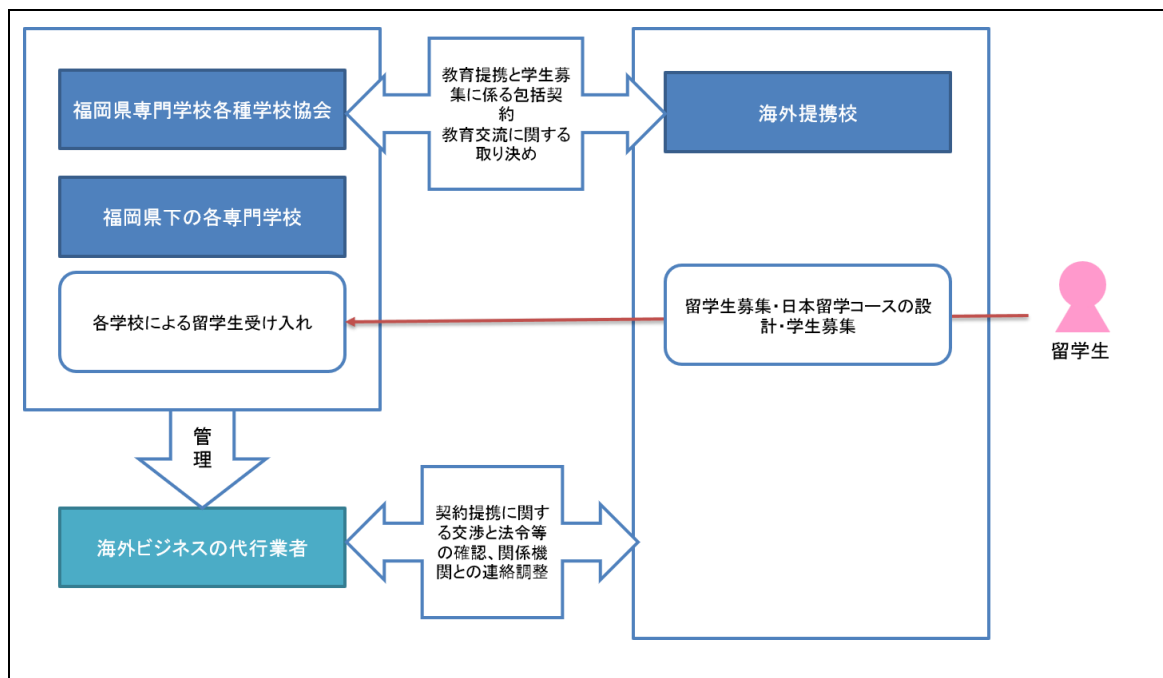
iii) 取組の推進体制

- 福岡県において留学生の受け入れを積極的に取り組んできた専修学校を中心に、体制を構築する。
- 福岡市商工観光部門にて、長年、中国・東アジアとのビジネス交流振興に携わってきた“桜交流企画・進藤代表”に事業への助言・支援を依頼する。
- 福専各は、広報部会の構成員の助言・提案にもとづき、提携の対象校との交渉の窓口を担う。福岡県私学振興課と連携し、留学に関する諸手続きについて、整理するとともに、将来的には、単位互換や交換留学、教員交流によるカリキュラム・プログラム改善に至る道筋をオール福岡として取り組む。参加する専門学校各校が、個別に対象校と詳細を詰める事務協議を担わずに、求める提携メニューに参加すれば良い仕組みづくりの中核として、福専各は機能する。

iv) 構成員

	氏名	所属・役職
1	中村 登	九州英数学館 理事長
2	渡邊 浩令	専門学校コンピュータ教育学院 理事長
3	亀谷 弘幸	学校法人麻生塾 国際交流センター長
4	赤坂 賢司	専門学校東京国際ビジネスカレッジ福岡校
5	山本 重春	専門学校九州スクールオブビジネス 校長
6	進藤 千尋	桜交流企画 代表

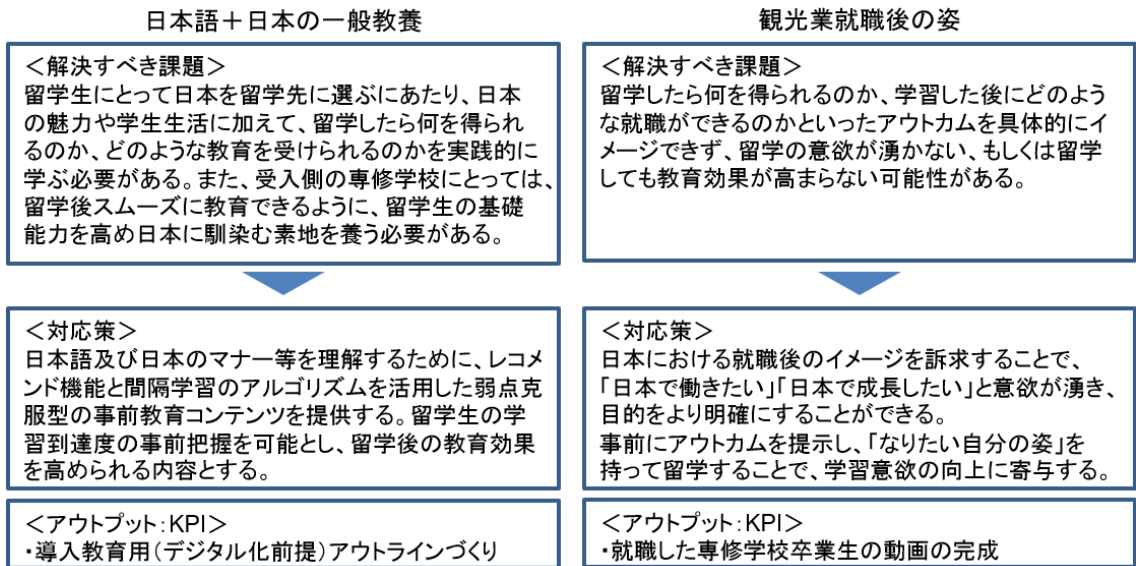
v) 体制図 (イメージ)



② 教育コンテンツ部会

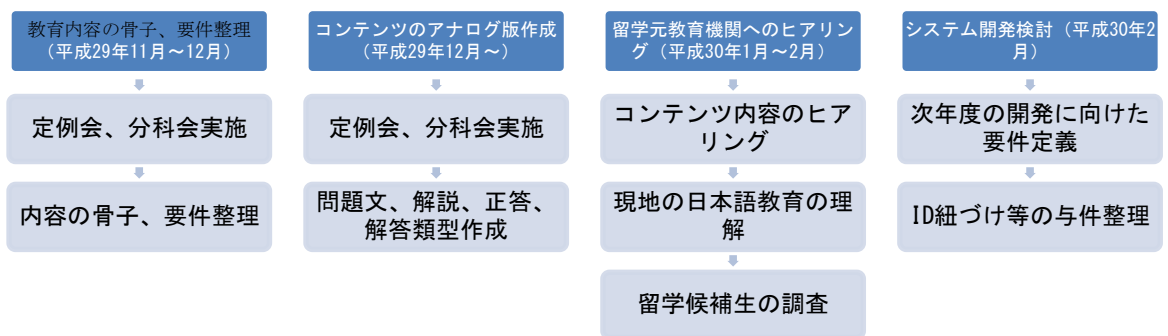
i) 概要

- 質の高い学生の確保・育成を目的としたオンライン教育・到達度確認試験を提携校との連携のなかで実施する。
- デジタルコンテンツによる教育は、教育内容の習熟度により自動的に進度を調節するもの。習熟した教員を必要としない教育環境を提供する一方、教員は学生の学習サポートに専念することも、学生の理解を手助けすることになる。
- 教育コンテンツ構築の KPI は一義的には、アウトラインづくりや動画の完成にしているが、その本質は学生の理解度習熟度の向上にある。したがって、KPI はこれらに加えて、日本語・日本の一般教養の習熟度速度や学習継続率等の教育の質を問う事項を加えて設定する。
- 初年度は中国の揚州大学、次年度以降は中国の他大学、および、韓国、台湾の大学とも同様な取り組みを実施していく。



ii) 具体的活動

- 初年度は三か年の全体計画の構築とシステムプロトタイプの導入を実施
- 2年目以降は、提携教育機関との連携によるシステム運営を通じて、教育コンテンツ、支援コンテンツの質向上に取り組む。



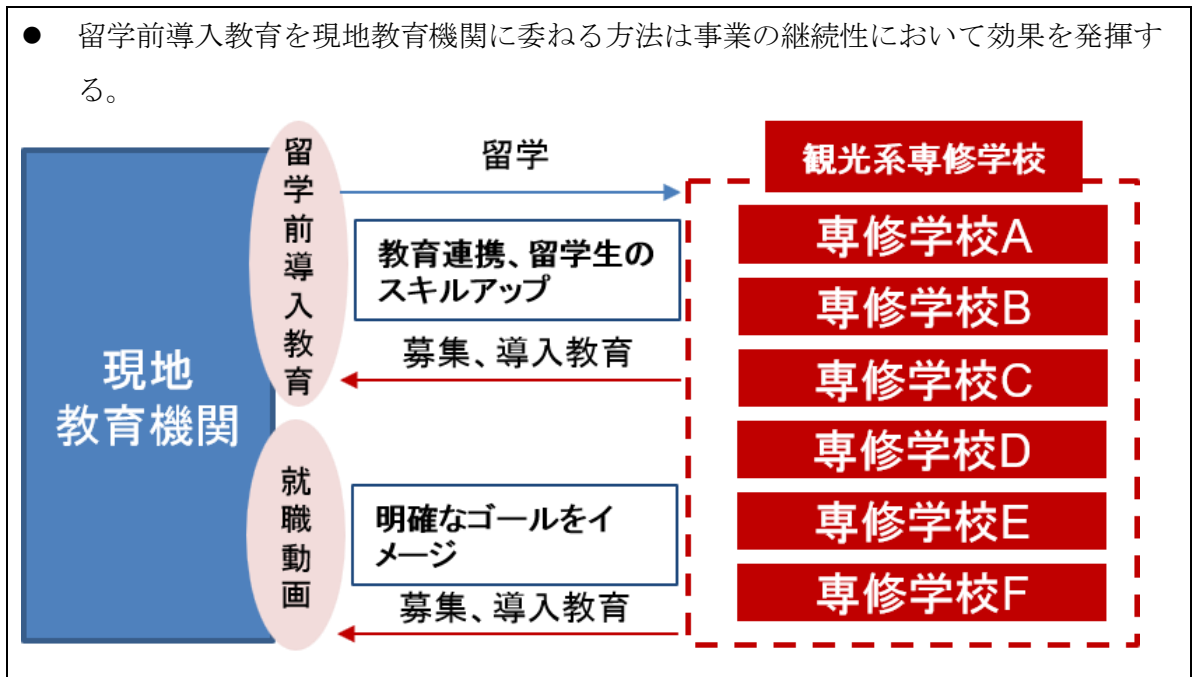
iii) 取組の推進体制

- 日本語教育・日本の一般教養教育のデジタル化は、サービスの仕組みを持つ事業者が構築する。
- そのコンテンツ開発には、福岡の専門学校にて多くの海外人材を育成した経験があり、指導者育成の立場にある財津香壽子氏に指導・監修を依頼する。
- 海外提携校との事業環境整備、調整には、広報部会にて提携交渉にあたる事業者が担当する。

iv) 構成員

	氏名	所属・役職
1	中村 登	九州英数学館 理事長
2	渡邊 浩令	専門学校コンピュータ教育学院 理事長
3	藤田 祐子	専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ
4	山本 寛	福岡外語専門学校 事務長
6	財津香壽子	キャリアサポート・オフィス一歩 代表

v) 体制図 (イメージ)



③ 生活支援部会

i) 概要

- 日本への留学を決定する際に学生が考慮する点に生活環境への不安除去は不可欠である。
- 九州地域戦略会議の政策提言や活動を参考に日本の専門学校教育への進学を希望する学生の生活支援から就労までを幅広く支援する仕組みを構築し、定着を支援する。
- 初年度は中国、次年度は韓国、台湾の留学生を対象とした支援とする。

解決すべき課題	対応策
<p>東京に次いで2番目に留学生の多い福岡入国管理局では、事前電話連絡から登録まで手続きが煩雑である。慣れない学校や新たに受け入れを担当する教員には負担の大きな事務となる。一方で指導事項を遵守することは今後の優秀な留学生の確保には欠かせないことでもある。</p>	<p>福専各ではこれまで、教職員向けの在留資格研修・就労ビザ等研修や留学生情報冊子の作成等に取り組んできた。</p> <p>このうち評価の高い研修事業を実施し、過去のアンケート結果に基づき、要望が多かった『留学生受入れのための実践的ガイドブック』の増刷を行う。</p>
<p>留学生の在留中支援は、生活上、金銭面、学習面、就労への不安、近隣・友人とのトラブル対応など多岐に渡る。潜在化すると失踪や犯罪につながる可能性も否定できない。</p> <p>教員は事後的に対処することができても予防までは手が打てないのが実態である。</p>	<p>福専各では、就職したい留学生のための無料相談窓口を設置（年間のべ93件）などに取り組んだが、生活支援を目的とした活動は少ない。</p> <p>既に就労した在留人材からメンターを募り、WeChat・LINE等のSNS相談受付に取り組む。</p>
<p>従来、留学生の在籍管理は各校個別に対応しているのが現状である。福専各による包括的提携による留学受入が実現することで一元的に情報を管理し必要な情報を閲覧することが望ましい。</p>	<p>SRP型のシステムを活用した留学生の在籍管理を福岡県単位で構築することで、各校の負担が少なく効率的に管理することが可能になる。</p> <p>同時に福岡県下の留学生の統計情報がリアルタイムで把握できるようになる。</p> <p>将来はSNS情報と連携させブロックチェーン技術を用いることで、国・地域別の課題の特徴などを洗い出すことができ、予防に活用することも期待できる。</p>

ii) 具体的活動

- 福専各が継続して取り組むガイドブック、教職員研修は従来の事業の改善を施し、取り組む。
- メンター制度は、「生活支援」「就労・定着支援」の中核をなすプロジェクト。先輩留学生（場合によっては卒業生を含む）の協力を得て、留学検討・準備時期から、留学後の生活時期までを、相談できるための仕組みを作る。コミュニケーションの手段はSNS等を中心とするが、30年度以降は入国後交流会などを交えていく。また、個別対応の結果としてのトラブル等を防ぐためのSNSのモニタリングやメンター指導を取り

入れる。

- これらメンター制度は、留学生向けのサービスを提供する不動産事業者や留学生交流サービス事業者と連携して実証事業からスタートする。
- 留学生の在籍管理は、学校ごとに導入具合が異なる。少人数の学生を受け入れる学校にとって、留学前の情報から就職後の情報までを一元管理するシステムの構築は多額の投資を必要とし踏み切ることができないことが多い。結果、職員の作業工数を増やすことにもつながる。今回の事業では、参加する各校の管理方法ヒアリングを通じて、共通するSRP型の在籍管理システムの構築を検討し、30年以降の運営を目指す。
- 以上を包括的に支援するため、総合相談窓口を開設し、WEB等において学校からの問い合わせに行政書士が答える。質問事項は事例紹介としてまとめ、WEB上に公開し、広くノウハウを提供する。

	29年度	30年度	31年度
研修事業の取り組みについて	27年度事業に改善を加えた在留資格研修、就労ビザ研修を実施		
	「留学生受入れのための実践的ガイドブック」を増刷する		
	★参加者：150名	★参加者：150名	★参加者：150名
教職員研修	★参加者：50名	★参加者：50名	★参加者：50名
メンター制度の拡充計画	・メンターの募集 ・相談用SNSの開設	・県下留学生（大学・専修学校）に周知 ・交流会などに拡充	質問の蓄積をベースにAIチャットでの対応をおこなう
	★対応言語：2言語	★対応言語：3言語	★対応言語：5言語
	★相談者：30名	★相談者：150名	★相談者：500名
在学生の在籍管理	SRP型在籍管理システムの検討	SRP型在籍管理の方法	本格運用（参加校全てで利用を開始）

iii) 取組の推進体制

- 研修事業の取り組み：「活用できる」と評価の高いガイドブックを増刷する。研修・研修で用いるツールについては、アンケートを行い、内容の評価・改善に用いる。30年度以降は、研修事業の内容を拡充し、ガイドブックの改定も視野に対応する。
- 教職員研修：評価アンケート等をもとに内容の拡充を図り、継続する。
- メンター制度：顧客サービスの一環として海外人材の生活相談等をおこなっている留学生寮・不動産事業者、ホームステイ事業者等と連携し、対象を留学生に拡大し広く福岡県下で支援をおこなう体制を構築する。制度運用後、アンケートを行い、評価・

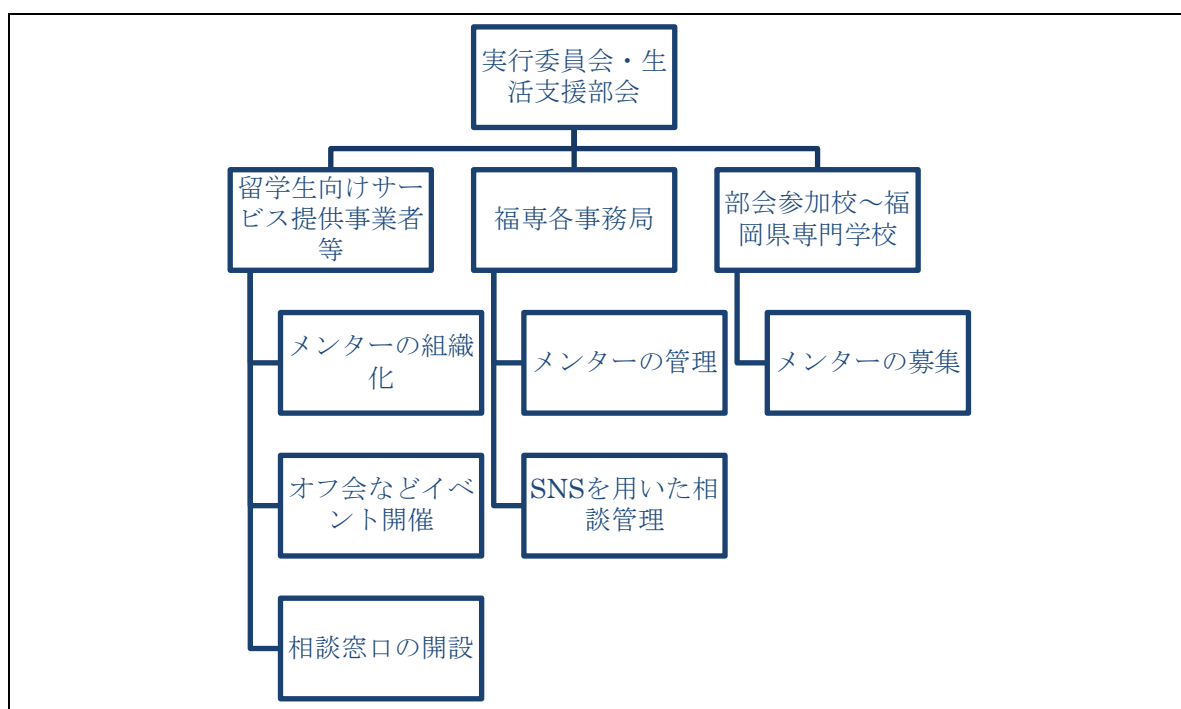
改善に用いる。

- 在学生の在籍管理：初年度は、学校共通の在籍管理システム導入について、関係者ヒアリング、ビジネスプロセス解析を通じて生活支援部会でモデルを検討する。次年度以降は参加各校の協力を得てシステムのプロトタイプ開発に取り組む。
- 賃貸時の保証人確保を容易にする仕組みの提供：留学生の入国時・就労時の住居確保の課題である保証人の確保について、不動産事業者や先事例事業者（福岡地域留学生交流推進協議会）との協議を通じて、保証人制度づくりに取り組む。
- アルバイトの時間制限の改善に向けた行政機関との協議：福岡市・北九州市の特区や九州経済連合会等との協議を通じて取り組む。（九州地域戦略会議は、既に海外人材の活用の一環として本件の提言を発表している）

iv) 構成員

	氏名	所属・役職
1	中村 登	九州英数学館 理事長
2	渡邊 浩令	専門学校コンピュータ教育学院 理事長
3	鮫島 重喜	専門学校共生館国際福祉医療カレッジ 校長
4	水上 美紀	福岡国土建設専門学校 事務長
5	進藤 千尋	桜交流企画 代表

v) 体制図（イメージ）



④ 就労・定着支援部会

i) 概要

- 留学生の国内就労定着の課題は、留学生側と企業側に分けて対策が考えられる。
- 日本は閉鎖的な労働市場ではあるが、人材不足に悩む企業が積極的に海外人材を活用することで経済活性化につなげる。

解決すべき課題	対応策
<p>27年度事業「採用マッチングプロジェクト」では43社へのアプローチの結果、面接8社、内定2社に留まった。この時の課題は、日本人学生と同じ採用タームで行う（留学生は就活が遅い）こと、企業・学校間で就職を希望する学生との情報共有がなされておらずミスマッチを生じたことである。</p>	<p>企業の海外人材採用への関心の掘り起しのため経営者・人事担当者と留学生との交流会を企画、実施する。 人材としての留学生にフォーカスした留学生就職説明会などの啓発活動を企画検討する。</p>
<p>留学生向けに国内企業への就労の考え方を理解することが必要。日本人は企業を選ぶ傾向が強い一方、留学生は職種と仕事の内容を選ぶ傾向が強い。結果、就労した後の職務内容と当初の想定とのギャップが生じ退職に至ることがある。</p>	<p>留学生メンターによる SNS 相談機能で就労後の在留人材の相談を受け付ける。 グローバル企業経験者（シニア）をコーディネータとして雇用し企業と在留人材間との調整をおこなう。 海外人材の採用を促し、地場企業への定着を目的としたサイト“Work in Kyushu”の活用を企業・学生双方に促し、就労実現を支援する。</p>

ii) 具体的活動

- **経営者・人事担当者**と**留学生との交流会**：29年度は事業開催に向けて実施計画を部会で作成し、次年度以降の取り組みの準備をおこなう。
- **留学生就職説明会**：福専各主催の就職説明会を開催する。関係機関を通じて広く周知活動をおこない、留学生向けの活動の認知を広げる。特に九経連との連携で情報を広めたい。次年度以降は、海外人材に関心のある企業への事前説明会などを通じて、参画企業を増やす工夫をする。
- **Work in Kyushu**との連携：すでに留学生の就職支援サイトを立ち上げている九経連「**Work in Kyushu**」と連携しマッチングを促進する。福専各と九経連がそれぞれの窓口となり、福岡県の支援の下、サイトの活性化を目指す。

- 就労後フォローアップ事業：前項で提案したメンター制度を拡充し、就労後のフォローアップにつなげていく。
- これら活動は、参加者へのアンケート調査にて事業の評価改善に活かす。
- 初年度は中国、次年度は韓国、台湾の留学生を対象とした支援とする。

	29年度	30年度	31年度
経営者・人事担当者と留学生との交流会	実施計画づくり	イベントとして開催し課題を明らかに	定例的に開催
	—	★参加者：30名	★参加者：50名
留学生就職説明会	三か年計画立案、留学生就職説明会開催	年間を通じた広報活動により規模を拡充	年間を通じた広報活動により規模を拡充
	★参加者：50名	★参加者：80名	★参加者：150名
メンター制度（再掲）	・メンターの募集、相談用SNSの開設	・県下留学生（大学・専修学校）に周知、交流会などに拡充	質問の蓄積をベースにAIチャットでの対応をおこなう
	★2言語対応	★3言語対応	★5言語対応
Work in Kyushu との連携	連携に向けた課題の整理 関係機関との調整	学生向け・連携企業向け説明会開催～サイトによるマッチング開始	継続的な活動へ
	—	★利用者100名	★利用者500名
就業後フォローアップ事業	人材の確保 在留人材ヒアリングと活動計画の立案	コーディネーター・フォローアップの開始（予約制）	人員・機能の拡充
	—	★件数：50件	★件数：100件

iii) 取組の推進体制

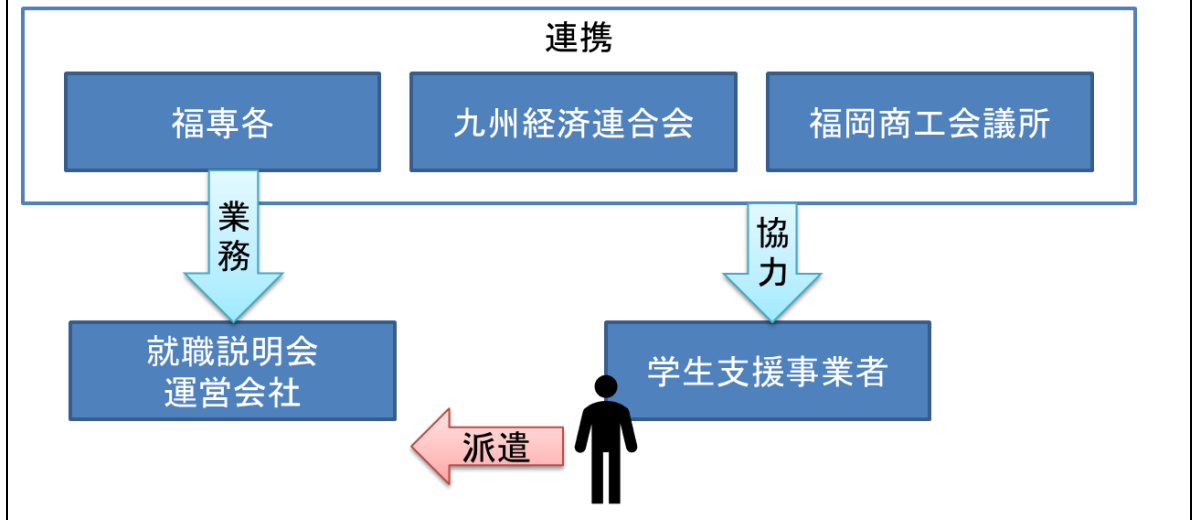
- 留学生就職説明会の運営は、ノウハウを持つ事業者にも都度、運営を発注する。
- 経営者・人事担当者と留学生との交流事業は前項事業者にも同時に発注する方法とするほか、九経連や商工会議所との合同開催など、産学連携した取り組みとして実施していきたい。
- Work in Kyushu は九経連が運営管理する事業であり、これに連携する方策をとる。
- メンター制度、就業後フォローアップ事業は、民間事業者の活動を振興し継続する取組とし、福岡の学生支援の通常のサービスとしての定着を図る。

iv) 構成員

	氏名	所属・役職
1	中村 登	九州英数学館 理事長
2	渡邊 浩令	専門学校コンピュータ教育学院 理事長
3	日野 幸一	大原昂自動車・スポーツ専門学校 総務課長
4	宮田 智栄	専門学校国際貢献専門大学校 理事長
5	進藤 千尋	桜交流企画 代表

v) 体制図 (イメージ)

- 留学生の就労振興をおこなう団体同士の連絡調整を福専各が担うことで、スムーズな事業の遂行を目指す。
- 事業者への協力は団体で連携しておこなうことで、相乗効果を生みたい。



第2章 広報部会の取り組み

1. 活動概要

(1) 目的

日本に関心があり学習意欲の高い中国の学生を福岡県内の専門学校へ招致し、卒業後も日本に就職できるよう、本プロジェクトでは現地での提携校候補探し、契約交渉、事務手続きのサポートなどを行い、専門学校における手続きの負担軽減を図る。また将来的には海外の教育機関と日本の専門学校との単位互換や、教員・学生間の相互交流を実現し、真の職業教育のグローバル化を目指すものとする。

(2) 目標

初年度（平成29年度）は中国揚州市の専門学校との契約締結。平成30年度以降は中国の提携校を増やすと同時に、新たに台湾、韓国の教育機関との提携交渉の準備を始める。

2. 提携交渉の経緯

今回の事業対象範囲を観光サービス業分野にターゲットを絞る一方、中国国内で同分野の得意な専門学校である「江蘇旅行職業学院」（揚州市）に辿り着きアプローチを開始した。

昨年11月には同校とコンタクトを開始し、概ね趣旨については賛同された。続く12月には包括契約の具体的な内容や今後の課題事項について率直な意見交換を実施した。その後、翌1月には、協会会長が現地に赴き、先方の学院長との間で正式な契約書である「協力合意書」に調印するに至った。

(1) 中国視察（第1回）

①日 程 平成29年12月19日（火）～21日（木）

②訪問先 中国 江蘇省 揚州市
江蘇旅行職業学院、揚州旅行商貿学校、
揚州大学、竹西中学

③目 的 中国の有力専門学校との包括契約に向けた協議、教育コンテンツ及びプログラムについて現地システムの確認

④内 容 協力意向書を取り交わす段取りが整い、次回は協会会長が代表して調印式へ出席することとなった。



(2) 中国視察 (第2回)

- ①日 程 平成30年1月21日(日)～23日(火)
- ②訪問先 中国 江蘇省 揚州市 江蘇旅行職業学院
- ③目 的 中国の有力専門学校との包括契約締結、同校以外との提携の模索
- ④内 容 江蘇旅行職業学院において調印式を行った。



(3) 中国視察 (第3回)

- ①日 程 平成30年3月4日(日)～7日(水)
- ②訪問先 中国 江蘇省 揚州市
揚州大学、揚州大学広陵学院、江蘇旅行職業学院、蘇州經貿職業技術学院
- ③目 的 提携校視察、現地学生へのPR
- ④内 容 福岡の専門学校を代表して麻生塾、大原昴自動車・スポーツ専門学校、九州英数学館、専門学校コンピュータ教育学院、福岡外語専門学校の5校がプレゼンテーションを行い、日本の専門教育や福岡の魅力をPRした。



3. 提携校等の紹介

江蘇旅行職業学院のある揚州市は、中華人民共和国江蘇省に位置する中核都市である。

揚州市のある中国江蘇省は、1992年に福岡県と友好提携を締結しており、環境、経済、青少年、文化・芸術など幅広い分野で交流を行っている。

(1) 江蘇旅行職業学院

IT、ビジネス、工芸、貿易、調理を始め数多くの学科を持っている。その中でも特に旅行と調理の学科の卒業生は全世界中で活躍している。なお中国駐外国領事館で料理を提供しているスタッフの90%以上がこの学校の卒業生である。

(2) 揚州大学 *交渉中

揚州大学は、文学、農学、獣医学、法学などを中心とする江蘇省の重点大学のうちの一つ。中国の大学の総合力ランキングでは、常に100位以内にランクインされる実力ある大学として知られている。

(3) 揚州大学広陵学院 *交渉中

広陵学院は揚州大学の関係校、IT、電子関係、国際ビジネス、会計、旅行、建築、土木、介護、アニメ、英語、デザインなどの学科がある四年制大学である。

4. 提携の内容（協力意向書）

甲方：江蘇旅行職業学院

乙方：一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会

甲及び乙は、将来的に自国及び自国企業のグローバル化に資するため、グローバルビジネスに役立つ国際的な職業教育、人材育成及び人材交流を推進することを目的として、甲乙間の協力意向内容について以下のとおり協力意向書（以下「本意向書」という。）を締結する。

第1条（協力意向の内容）

甲及び乙は、以下の意向内容（以下「本件業務」という。）について協力することに同意する。

1. 日本への留学の目的を明確化するため日本での就職後のイメージを広報
2. 日本の専門学校へ進学意向のある学生への留学生募集活動
3. 日本語及び日本文化に対する事前学習訓練のための教育環境の提供
4. 日本の専門学校への入学、日本企業への就職の紹介・試験・面接などのサポート
5. 甲乙の教師・学生間の交流イベントの開催

第2条（機密保持）

甲及び乙は、本意向書の履行に関して知り得た互いの機密事項を相手方の事前の承諾なく第三者に漏洩しまたは開示してはならない。

第3条（言語）

本契約は、日本語及び中国語の両言語により作成する。なお、日本語版と中国語版は同等の効力を有するものとする。

以下空白

本意向書は甲乙の署名押印した時点で効力発生とする。本意向書は日本語と中国語で併記したものを2通作成し、甲乙各1通保有する。

甲方： 江蘇旅行職業学院

代表者サイン/Signature:

職務名称:

住所:

日期： 年 月 日

乙方：一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会

代表者サイン/Signature:

職務名称:

住所： 〒812-0046

日本福岡市博多区吉塚本町13-50 吉塚合同庁舎6階

日期： 年 月 日

5. 今後の活動

今年度（平成29年度）は江蘇旅行職業学院と協力意向書を締結済である。次年度以降は韓国、台湾においても提携交渉を進めていく予定。一方で本格的な学生募集をスタートし、中国国内では来日前に日本語教育をしっかりと実施していく。なお、留学する学生の実績を確保するだけでなく、日本と海外の教育機関との単位互換の実現、体験授業、ホームステイなどを実施するとともに、平成31年4月入学の留学生の就職先探し、提携校を観光サービス分野以外に拡大することが最終的な目標となる。

第3章 教育コンテンツ部会の取り組み

1 開発にあたり

<現状の課題>

教育コンテンツを作成するにあたり、現状を整理して目的及びコンセプトを明確にした。

福岡県における外国人留学生数の総数は増加傾向にあるものの、そのまま日本で就職する学生は少ない。日本における就職は労働条件・就労ビザ・異文化理解などへのハードルが高く、卒業後に日本で就職をせず帰国してしまう学生が多いという声も多い。専修学校においても、留学生が増加する機会は生まれているものの、全く違う文化で育った外国人を日本人学生と同じ教育で学習効果を高めることは難しく、質を高める施策が求められている。また、外国人留学生が日本の教育機関で学び、企業へ就職を経るためには、少なからず発生する母国とのギャップを埋める必要があると想定される。留学前の段階から日本での生活やマナー等を適切に理解することで、本来の目的である学びに対する学習効果の向上に寄与することができると考えられる。

<コンセプトの整理>

上記の課題を整理し、教育コンテンツ作成のためのコンセプトとして、外国人留学生においては日本（とくに福岡県）を留学先に選ぶにあたり、日本の魅力や学生生活はもちろん留学したら何を得られるのか、どのような教育を受けられるのかを実践的に学ぶ必要がある。受入側の専修学校においても、少しでも留学後スムーズに学習できるように、導入教育を施すことで学生の基礎能力を高めると同時に理解度を把握し、日本に馴染む準備を整えることが求められている。

そこで既にある E-Learning システムを活用し、留学生が事前に日本を理解する環境を提供し、受入側の専修学校においても留学生個々の理解度が事前に把握することで、教育効果を高めることができるコンテンツの提供をすることを目標とする。

<今年度の成果物>

- ・導入教育用（デジタル化前提）アウトライン ※600 問程度を想定した内容

2 活動概要

教育コンテンツ部会を全 7 回にわたり開催し、次年度の教育コンテンツの問題作成のためのアウトライン作りを行った。活動概要は下記のとおりである。

第 1 回教育コンテンツ部会（平成 29 年 11 月 30 日）

- (1) 今後の進め方（スケジュール）の共有・確認
- (2) 教育コンテンツのアウトライン作成にあたり、コンセプト（方針）の確認
- (3) 教育コンテンツ内容（大項目）の確認
- (4) 今回導入するシステム（コアラーン）の概要説明

第 2 回教育コンテンツ部会（平成 29 年 12 月 7 日）

- (1) 第一回実施の大項目検討内容の確認・共有
- (2) 教育コンテンツ内容（中項目）の確認
⇒学びの項目について、重要度を 3 段階にて振り分けて分類する方針とする（A、重要項目 B、確認項目 C、紹介項目）。
- (3) 12 月中国視察時の確認事項について

第 3 回教育コンテンツ部会（平成 29 年 12 月 13 日）

- (1) 第 2 回教育コンテンツ部会内容反映資料の共有・確認
- (2) 現地視察にて確認すべき事項の共有及び討議
 - ・コンテンツ（学び）についての確認事項共有
 - ・システムについての確認事項共有

中国視察（平成 29 年 12 月 19 日～22 日）

- ・蘇州旅行技術学院見学
- ・揚州旅行商貿学校見学
- ・揚州大学日本語学科見学

第4回教育コンテンツ部会（平成30年1月9日）

- （1）現地視察の目的
- （2）スケジュール
- （3）訪問先と状況報告
- （4）視察結果を踏まえた総括
- （5）今後のコンテンツ検討の進め方について

第5回教育コンテンツ部会（平成30年2月2日）

- （1）コンセプトの再確認
- （2）本コンテンツの問題解答における評価基準
- （3）システムの利用イメージと出題形式
- （4）問題の項目と数量について

第6回教育コンテンツ部会（平成30年2月15日）

- （1）今年度事業のまとめ

第7回教育コンテンツ部会（平成30年2月22日）

- （1）次年度事業に向けて

中国視察報告

① 蘇州旅行技術学院

- ・ 5つ星の専門学校（中国では最高レベル）
- ・ 入学者は中卒後、5年間（高専に近い）。3年間学び（高卒程度）、その後留学。
- ・ 授業見学（観光系の授業と英語の授業の班に分かれて視察）
- ・ 授業見学後、学院長と意見交換を実施
- ・ 2019年4月の留学開始に向けて、2018年10月からVISA取得等の留学手続きが必要となる。
- ・ したがって、2018年1月～10月が日本語学習期間となる

■ 校舎及び打合せ



■ 授業風景



■ 調理実習の食事



② 揚州旅行商貿学校見学

- ・ 4つ星の学校
- ・ 入学者は、主に15～16歳が入学して、3年間卒業して、18歳で留学。
- ・ 制度は3年制度か5年制度。
- ・ 主要な就職先は北京、上海、南京、揚州の4つ
- ・ 在籍学生5000人、在籍日本語教師3名。
- ・ 6つの教育プログラムを持つ

旅行、料理、入学前のインターンシップ(大学入学のための)、国際貿易ビジネス、設計建設、ホテルサービス人材育成などの学科

- ・ 施設見学 (ホテルの客室、宴会、その他観光系施設のモックアップ充実)
- ・ 日本では、厚木市と提携

■校舎



■ 授業風景



③ 竹西中学校見学

- ・揚州市で最高レベルの中学
 - ・教室見学にて質問の時間もあり、福岡を知っていて日本に興味のある学生も多かった
 - ・校長先生自らのアテンドでマルチメディアクラスを訪問
 - ・タブレット配布（レンタル）による学習アプリの活用を視察
- ※宿題の配布、管理などコアラーンに近い機能あり
- ※国内の横連携が充実しており、他中学の先生の授業をタブレットで見ることができる

・ITリテラシーが高く、タブレット等を活用した学習に違和感はない印象を受けた

■施設



■授業風景



④ 揚州大学日本語学科見学

・揚州大学全体では、在校生5万人。8つのキャンパスを持つ。中国でも大手の大学で、揚州では「揚州大学の中に揚州市がある」といわれるほど超広大なキャンパス。

・日本人講師2名を抱えており、福岡大学との連携も行っている

■校舎



■授業風景



3. コンテンツの設計

導入教育コンテンツの問題の設計について、コンセプトに基づきコンテンツの大項目を決め、それに紐づく中項目を設定した。

<コンセプト>

- ① 日本について学ぶ
- ② 福岡について学ぶ
- ③ 留学生活について学ぶ

<大項目>

3つのコンセプトそれぞれにおいて、必要となるコンテンツを設定した

- ① 日本について学ぶ
 - ・日本について
 - ・日本人の価値観、文化風習
 - ・日本の伝統文化
 - ・日本と中国の関わり
- ② 福岡について学ぶ
 - ・福岡と中国の関わり
- ③ 留学生活について学ぶ
 - ・日本での学校生活
 - ・暮らしの知識
 - ・ビジネスマナー、就職面接マナー

<中項目>

中項目においては、それぞれに重要度を設定することとし、問題数の重みづけを行い効果的に学習ができる設計を行った。

- A 重要 ※重要度高い 問題数：30問から50問程度
B 確認 ※重要度中程度 問題数：10問から30問程度
C 紹介 ※重要度低い 問題数：5問から10問程度
※各コンテンツ項目については問題リスト参照

導入教育コンテンツの問題解答における評価基準においても、E-Learningの特性を活用し、効果的な学習ができるように以下のように方針を定めた。

<評価基準>

- ① 知識習得
 - ・各項目の完全習得を目指す（全問正解）

- ・知らない、覚えていない項目を無くすことで、不安の解消や自信につながる

② 知識定着

- ・繰り返し問題を解き、間隔学習を行うことでの知識定着を促進
- ・覚えたつもりではなく、「覚えている」という感覚へ昇華させる

知識習得

全範囲完全理解の場合
不正解の問題だけが、正解するまで繰り返し出題される。
基本的にすべての問題に出会うことになる。

1, ...
 2, ...
 3, ...
 4, ...
 5, ...

▶

× 2, ...
 × 4, ...

▶

○ 2, ...

▶

1回目 2回目 3回目 全問正解でトロフィー

Bパターン 計算問題の場合
全てが正解になるまで類題が繰り返し出題される。
計算問題など類題を出題しやすい問題に有利。

1, ...
 × 2, ...
 3, ...
 × 4, ...
 5, ...

▶

○ 6, ...
 × 7, ...
 × 8, ...
 9, ...
 10, ...

▶

○ 11, ...
 ○ 12, ...
 ○ 13, ...
 ○ 14, ...
 ○ 15, ...

▶

1回目 2回目 3回目 全問正解でトロフィー

知識定着

- ・忘却曲線に即して問題を再提示
- ・具体的には、1日後、7日後、のような間隔で再提示
- ・同じ難易度レベルの問題を繰り返す事で、その問題で得るべき知識の定着化を図る

※参考：ヘルマン・エビングハウス（忘却曲線）

※システム利用イメージ（学習者画面）



学習状況の把握

- ・顔マーク
ドリル内で満点を取った数や、トロフィーを取得した数で表情や色が変わります。
- ・トロフィー
ドリル問題で満点を取っていること、また、一定期間あけた後に再度トライした結果により色や表現が変わります。

解答を選択肢、答え合わせを選択することで自動採点します。
○×選択式、択一問題、複数選択問題、数字入力機能があります。

また、学習者がどれくらい理解しているかを確認するために、教員が各自の進捗を詳細に把握することができ、その後の教育に活用できる仕組みも取り入れることとした。

※システム利用イメージ（管理者画面）



- 一目で受講者がどのような習熟状態（トロフィー取得状況）にあるのか俯瞰できる
- 横軸で見れば、個人にフォーカスして、どの単元でつまづいているか確認可能
- 縦軸で見れば、単元にフォーカスして、グループ全体の習熟を確認可能
- 一目で受講者の学習スタイルを俯瞰できる
- 個人にフォーカスして、時系列でどのような遷移を辿っているか見ることも可能
- 「問題児」「非効率」層に絞ってフォローするなど、効率的な運用が可能に

1 ヶ月から 2 ヶ月程度の学習期間を想定し、問題リストをシステムへ落とし込むための設計を確認した。



4. コンテンツ（アウトライン）の評価及び総括

コンテンツ（アウトライン）を作成するうえで、学生が学習するタイミングや環境を考慮し、コンテンツ設計及び搭載予定システムの選定を行った。また、日本国内で設計し他内容を現地視察にて確認を行い、ギャップがないか検討を実施した。中国の視察において、ヒアリング及び現地調査を行い確認できた点をコンテンツ及びシステム面から下記にて掲げる。

<中国視察におけるコンテンツ及びシステムの調査結果総括>

日本留学/就職の意欲 (福専各目線)	日本への興味	<ul style="list-style-type: none"> 興味はあるようだ。学校教育でも“日本”という国のことをいくつかの科目を通じて教えている。 学生も「日本へは行ってみたい、京都、アニメ、ドラマが好き」との声あり。 	
	海外留学について (日本の人気度)	<ul style="list-style-type: none"> 日本への留学・就職を考えているのは、とても少ない。専門学校生だと36人中2名程度。大学では5万人中120名程度。 給与は、海外に行くのであれば、北米北欧の方が魅力的。 	
	福専各の提携先 (留学生の提供元候補学校)	<ul style="list-style-type: none"> 高等専門学校がターゲットは確実。大学まで行くと、ほぼ日本への留学はない。 今回視察した2校で、今後、情報交換を進行。 高等専門学校の日本語力の強化は課題。 	
コンテンツ 日本文化・日本語	コンテンツ案について	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化に関するコンテンツはないため、とても魅力がある。 日本語のe-learningのようなものはすでにある。リスニングやスピーキングがあるとさらによい。 追加してほしいコンテンツは今後、情報共有予定。(現時点だと、危険・リスクに関わることを追加してほしい。例：ギャンブル、風俗、お酒etc) 	
システム導入環境	ICTレベル ※Corelearn受け入れスキルの妥当性	教師	<ul style="list-style-type: none"> 通常の授業で、PCを用いて実施しているため問題ない。
		学生	<ul style="list-style-type: none"> 通常の授業で、PC等になじみがあり、問題ない。 家庭では、教科書ノートの他、iPhoneなどのスマホで勉強している。
	環境 (ICT/ネットワーク等)	<ul style="list-style-type: none"> 現地wifi、現地PCから接続を実施したが、問題ない。表示スピード(レスポンス)、表示文字(文字化けなど)など問題ない。 	

上記のヒアリング結果をもとに、再度教育コンテンツ部会にて共有及びコンテンツ内容を行った。日本語検定の学習については、本事業のコンテンツには当初の趣旨に沿って搭載しないこととした。ギャンブル等の項目については、日本においてそのような学生の声はあまり聞かず、一旦決定は保留とした。

また、コンテンツの搭載予定システムについては、現地においてもスムーズな動作環境が確認することができた。

第4章 生活支援部会の取り組み

1. 活動概要

日本の専門学校教育機関への進学を希望する留学生の生活支援から就労・定着までを幅広く支援する仕組みを構築した。具体的には後述のとおり、留学生担当教職員のための研修会の実施、行政書士による相談窓口を開設するなどして留学生を預かる教職員のニーズに応えた。また、昨年度作成した「留学生受入れのための実践的ガイドブック」を研修会で活用することにより、前年度の事業の効果を高めることができた。

2. 留学に関する課題

アンケートにもある通り留学生の問題には様々なケースがあって画一的な対応が難しいようである。また、海外の教育機関との単位互換については、日本の専門学校が時間制を採用しているため、認定が複雑であることが浮き彫りになってきた。今後は業界全体の課題として取り組んでいく必要がある。

3. 留学の課題への対応

研修会を通じて、引き続き基礎的な情報の提供が必要である。次年度以降は、研修事業をさらに拡充し、海外の教育機関との単位互換についても研究していく。

4. 主な活動（報告）

(1) 留学生担当教職員・実務者研修会

日時 平成29年11月30日（木）14:00～16:00

会場 福岡ガーデンパレス 1F ガーデンホール（福岡市中央区天神4-8-15）

次第 主催者挨拶

第1部 在留資格研修 「出入国管理行政について」

講師：福岡入国管理局 入国審査官 郡 岳彦 氏

第2部 実務者研修

「留学生受入れの現状および相談窓口開設について」

講師：行政書士 青崎 逸郎 氏

「留学生受け入れのための実践的ガイドブック紹介」

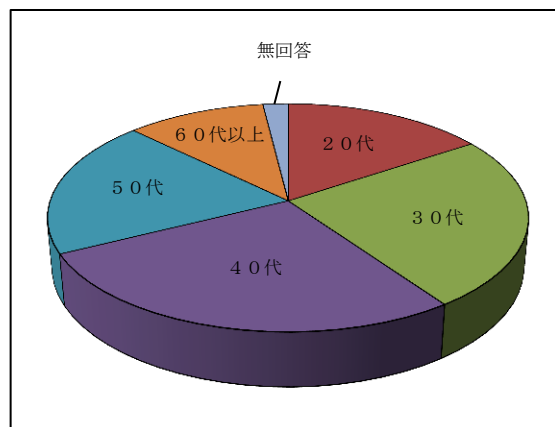
説明：留学生委員 赤坂 賢司 氏

留学生担当教職員・実務者研修アンケート(2017年11月30日)

(男性：51名、女性：51名、合計：102名)

Q1. 年齢

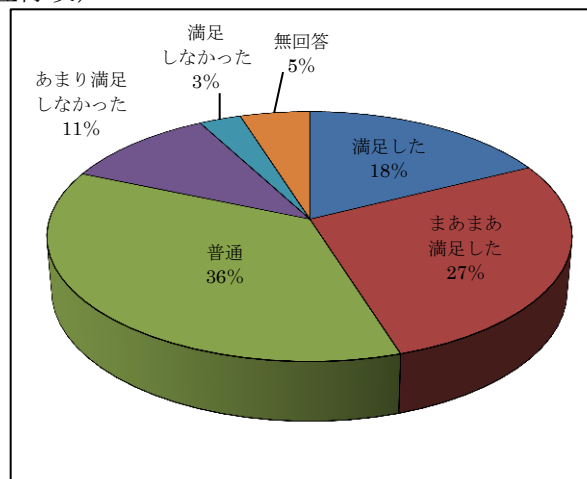
10代	0人
20代	16人
30代	25人
40代	28人
50代	20人
60代以上	11人
無回答	2人



Q2. 当事業の講座（セミナー）はいかがでしたか。

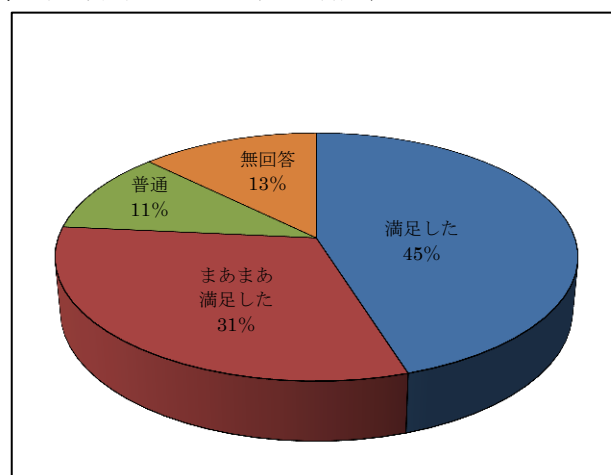
① 1部（在留資格研修 出入国管理行政）

満足した	18人
まあまあ満足した	28人
普通	37人
あまり満足しなかった	11人
満足しなかった	3人
無回答	5人



② 2部（実務者研修 行政書士指導・実践的ガイドブック活用）

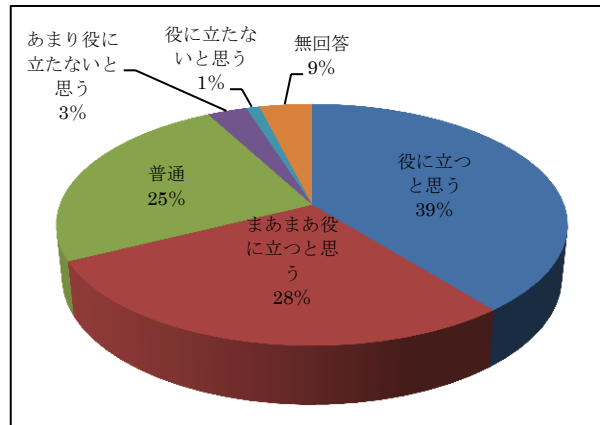
満足した	46人
まあまあ満足した	32人
普通	11人
あまり満足しなかった	0人
満足しなかった	0人
無回答	13人



Q 3. 当事業の講座（セミナー）の内容は、今後の活動に対して、役に立つと思いますか？

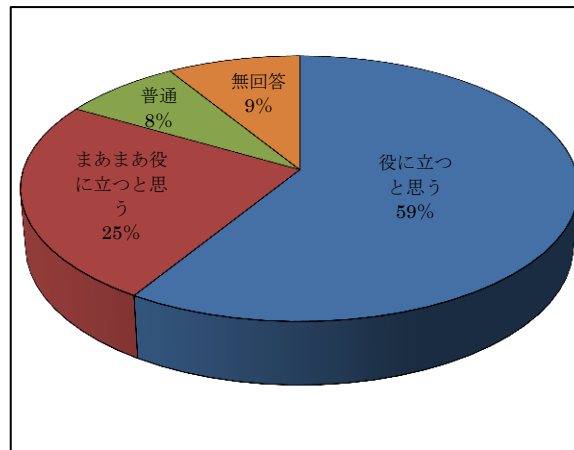
① 1部（在留資格研修 出入国管理行政）

役に立つと思う	40人
まあまあ役に立つと思う	29人
普通	25人
あまり役に立たないと思う	3人
役に立たないと思う	1人
無回答	4人



② 2部（実務者研修 行政書士指導・実践的ガイドブック活用）

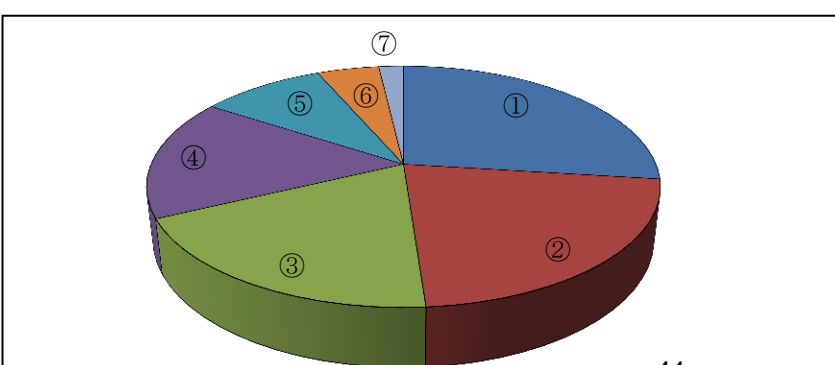
役に立つと思う	60人
まあまあ役に立つと思う	25人
普通	8人
あまり役に立たないと思う	0人
役に立たないと思う	0人
無回答	9人



Q 4. 今後留学生関連の講座（セミナー）で実施してほしい内容は何か？（複数回答可）

① 就労ビザ・法務知識	58人
② 留学生関連の就職活動基礎知識	47人
③ 福岡における留学生の就職実績	41人
④ 留学生募集についての情報	35人
⑤ 留学生政策成功例	20人
⑥ 面接・ビジネスマナー	10人
⑦ その他	4人

⑧その他	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の住宅事情・犯罪について ・出席不良の学生に対する各学校の対応等 ・不法滞在・不法就労 ・在留期間更新手続き後の在留期間の基準について ・就職後の一般的な定職年数について ・留学生が生活において直面する問題と解決方法 ・全国的な、留学生の就職実績の具体例を知りたい。
------	---



Q 5. 当講座のご感想やご要望などをご記入ください。

- ・今回の講座は大変勉強になりました。ガイドブックも参考にさせていただきたいと思います。
- ・第1部については一般的な内容で、やや早口のため聞きづらかった。もう少し具体的な内容だと参考になったと思います。
- ・入管の方の説明が早く、書きとめられない部分があった。今後HPなどで講座参加者のみが見られる動画もしくは、音声データの公開があればと思う。
- ・事例を挙げた在留資格認定証明書交付申請に関する話が聞け、参考になりました。また「実践的ガイドブック」の資料は役に立ちそうでありがたいです。
- ・入国管理局や行政書士の方とディスカッションできるセミナーを開催して頂きたいです。
- ・実際にどこかの専門学校に在籍している専門学生（留学生）の話を聞きたい。留学生による“生”の体験談を聞きたい。
- ・シビアな事例（警察がタッチする事案）や、在留活動（留学）の態度の事例、対策。対応についてより深く突っ込んだ内容について聞いてみたいと思う。
- ・経費支弁者の意義を再確認できたことや、長期休暇中（夏休みなど）の資格外活動時間について詳しく知ることができたと感じた。
- ・九州での「就労」ビザ取得事例等を知りたい。
- ・入管の方のお話は、もう少し事例を挙げて具体的に不許可になる例などお聞きしたいです
- ・学校ごとに学科も様々であり、専門士も違います。その学科毎の研究事例も行ってほしい。
- ・在留資格研修においては、留学生の受け入れに関する基礎知識を学ぶことができました。実務者研修においては事例をまじえた説明でとても分かりやすく、今後同じような事例に直面した場合に参考にしたいと思います。またこのような会がありましたら参加したいと思います。
- ・留学生の問題には色々なケースがあって対応が難しい。様々な事例、対応など、他校の例含め知りたいです。業務を引き継いだばかりなので、基礎的なセミナーもあれば参加したい。
- ・初めて留学生に関わる業務をする人のための、新任者研修（基礎的な内容）があるとありがたいと存じます。
- ・現在の問題点がわかってよかった。就職への不安があり、何とかしてあげたいと感じる事が多かったので、在留資格の明確化はわかりやすいと思った。
- ・とても役に立つお話でした。ありがとうございます。専門学校として留学生を受け入れるにあたって、参考にさせていただきたいと思います。

5. 事例紹介（留学生指導相談）

この度の事業では、一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会のホームページへ「留学生の指導相談窓口」を開設し、WEB上からお問い合わせいただく体制を整えた。

いただいた相談には、行政書士が回答し、留学生を受入れる専門学校等の支援に役立てた。主な相談内容とそれに対する回答を以下のとおり紹介する。

回答者：行政書士 青崎逸郎氏

Q 1. 日本語学校を退学している外国人（既婚女性。配偶者は日本で就労している）が本校に入学を希望している。在留期限が間近で満期を迎えるが、入学を認めるか判断するための時間が必要。このような場合に、在留期間を延長することが出来るか？

A. 配偶者の在留資格が、日本で就労可能なものであれば、在留資格「家族滞在」に変更申請、ないし、在留資格「家族滞在」の期間更新申請を行うことで、在留期間を伸ばすことは可能。

入学希望者の在留資格が「留学」で、配偶者の在留資格が「家族滞在」の場合、在留期限までに、在留期間更新許可申請を行えば、申請結果が出るまでは、適法に在留することが可能（最大2ヶ月）。どのような申請を行うか判断するためには、在留カードにて在留資格の確認が必要。

Q 2. 入学した後で、途中退学した場合に、学校が何らかの不利益を受ける可能性があるか？

A. 学校側の運営体制に問題があったり、退学者が多数に及ぶ場合は、今後の審査において、厳しく判断される可能性がある。退学理由が外国人本人に起因する場合は、不利益になることは考えにくい。

いずれにしても、今回の申請において、在留状況の詳細な説明を求められる可能性があるので、在籍していた日本語学校に、出席状況、退学した理由、滞在費用支弁能力、資格外活動の状況等を問い合わせ、入学審査の判断材料にしてみてもどうか。

第5章 就労・定着支援部会の取り組み

1. 活動概要

今年度は、当協会がテーマとしている観光サービス分野の企業を集め、留学生のための就職説明会を実施した。

2. 就労に関する課題

閉鎖的な労働市場である我が国において、人材不足に悩む企業が積極的に海外人材を活用することで経済の活性化につなげていく。

3. 就労に関する課題への対応

留学生の就職に必要な日本のマナーや習慣については教育コンテンツ部会で開発した教材を活用して留学生のレベルアップを図りたい。就労ビザの取得に関しては、行政機関と連携を取りながら進めていく。

4. 留学生就職説明会

平成29年度の委託事業において、当協会がテーマとしている観光サービス分野の留学生の就労・定着を支援するための就職説明会を開催した。

分野を限定したため小規模な説明会となったが、きめ細かな対応ができたことにより、企業と留学生のいずれにとっても満足度の高い説明会となった。

(1) 開催日 平成30年2月5日(月) 13:00～16:00

(2) 会場 ホテルレオパレス博多 3階 イベントホール
福岡市博多区博多駅東2丁目5-33 TEL 092-482-1212

(3) 参加企業 9社(観光サービス分野) ※1社、交通事情により当日キャンセル

No.	企業名
1	SNBL Nature 株式会社(指宿ベイヒルズHOTEL & SPA)
2	株式会社サンケイプランニング
3	第一交通産業株式会社
4	株式会社 タケノ(竹乃屋・ピストロタケノヤ)
5	HAKATAグローバル株式会社/HAKATAトラベル
6	有限会社 碧清(人吉温泉 鍋屋本館)
7	WBFリゾート沖縄株式会社(ホテルWBF福岡天神南)
8	株式会社三好不動産
9	株式会社 レオパレス21

(4) 留学生 146名 ※内訳は留学生アンケートのとおり



平成29年度 専修学校グローバル化対応推進支援事業
「留学生就職説明会」アンケート 集計 (企業向け)

アンケート依頼企業	8
回答のあった企業	8
回答率	100.0%

問1 本日の留学生向け就職説明会はいかがでしたか

満足した	6	75.0%
まあまあ満足した	2	25.0%
普通		0.0%
あまり満足しなかった		0.0%
満足しなかった		0.0%
満足しなかった		0.0%
計	8	100.0%

問2 本日の留学生向け就職説明会は今後の採用活動に対して、役に立ちましたか？

役に立った	5	62.5%
まあまあ役に立った	3	37.5%
普通		0.0%
あまり役に立たなかった		0.0%
役に立たなかった		0.0%
計	8	100.0%

問3 参加学生の感想をお聞かせください

1年生が多かったが、とても熱心に聞いてくれた!!2年生が欲しい。
思った以上のコミュニケーションが取れました。が、仕事と学業のミスマッチを感じました。
質問等、積極的と感じた。
就職への意欲が高く、質の良い学生が多かった。
皆さんは真面目で真剣に就職を考えているように思います。
ただ、「通訳者になりたい」など、でも具体的にどうしたらよいか分からない。
悪天候にも関わらず、参加学生も多く良かったです。
ちゃんと話を聞こうとする学生もおりました。
素直でやる気に満ちた学生が多かった印象です。ホテルという業種のため高い日本語能力が求められますので、そこが若干不安ではありますが、ただ、フロント業務以外にもレストラン、ハウスキーピングと仕事内容は様々ありますので、日本語が苦手な方でも活躍できる可能性は大いにあります。たくさんのご応募を期待しています。

問4 貴社の訪問学生数は何人でしたか

■性別

男	192	61.7%
女	119	38.3%
無回答	58	18.6%
計	311	100.0%

■国別

中国	22	6.4%
韓国	2	0.6%
台湾	3	0.9%
ベトナム	74	21.6%
ネパール	185	54.1%
その他	56	16.4%
計	342	100.0%

問5 本日の留学生向け就職説明会のご感想や今後のご要望などをご記入ください

とても良かった!!もう少し広めのブースが欲しい。
2月だと広報活動が出来ない為、時期を変更頂ければ幸いです。途中退席となり大変申し訳ございません。
良い機会をいただき、ありがとうございました。
面接の案内方法について、「このように案内してほしい」と事前にご説明いただきたかったです。
2019卒業の学生も多く、良かったです。参加させて頂き、誠にありがとうございました。
参加された学生が思いの外多かったため、ブースの大きさをもう少し増やしていただけると助かります。

■アンケート回収率

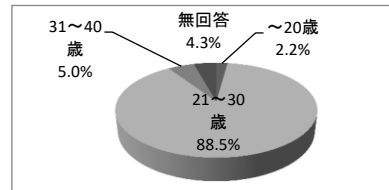
当日参加者数推計	146	※エントリーシート回収数
回答のあった人数	139	
回答率	95.2%	

■国籍

ネパール	65	46.8%
ベトナム	29	20.9%
中国	7	5.0%
スリランカ	4	2.9%
ミャンマー	3	2.2%
バングラデッシュ	3	2.2%
ロシア	2	1.4%
フランス	3	2.2%
フィリピン	2	1.4%
台湾	2	1.4%
韓国	2	1.4%
インド	3	2.2%
イタリア	2	1.4%
モンゴル	1	0.7%
マレーシア	1	0.7%
タイ	1	0.7%
カナダ	1	0.7%
インドネシア	1	0.7%
無回答	7	5.0%
計	139	100.0%

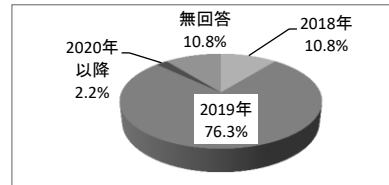
問1

年齢		
～20歳	3	2.2%
21～30歳	123	88.5%
31～40歳	7	5.0%
無回答	6	4.3%
計	139	100.0%



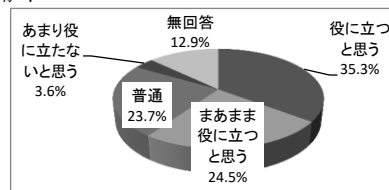
問2

卒業(予定)年		
2017年以前	0	0.0%
2018年	15	10.8%
2019年	106	76.3%
2020年以降	3	2.2%
無回答	15	10.8%
計	139	100.0%



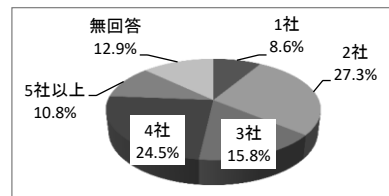
問3

今日の留学生向け就職説明会は今後の就職活動に役立つと思いますか?		
役に立つと思う	49	35.3%
まあまあ役に立つと思う	34	24.5%
普通	33	23.7%
あまり役に立たないと思う	5	3.6%
役に立たないと思う	0	0.0%
無回答	18	12.9%
計	139	100.0%



問4①

今日の留学生向け就職説明会で何社の説明を聞かれましたか。		
1社	12	8.6%
2社	38	27.3%
3社	22	15.8%
4社	34	24.5%
5社以上	15	10.8%
無回答	18	12.9%
計	139	100.0%



問4②

説明を聞かれた企業名をおしえてください。(複数回答)		
1 指宿ベイヒルズHOTEL&SPA (SNBL Nature株式会社)	36	
2 株式会社サンゲイプランニング	38	
3 第一交通産業株式会社	14	
4 株式会社タケノ(竹乃屋・ビストロタケノヤ)	23	
5 HAKATAグローバル株式会社/HAKATAトラベル	64	
6 有限会社碧清(人吉温泉 鍋屋本館)	-	
7 ホテルWBF福岡天神南(WBFリゾート沖縄株式会社)	43	
8 株式会社三好不動産	40	
9 株式会社レオパレス21	44	

※6 有限会社碧清(人吉温泉 鍋屋本館)は雪のため当日キャンセル

問5

今日の就職説明会の中で、就職したい企業はありますか。	16
	16
	0
	4
	13
	1
	25
	18
	9

問6 感想・要望など

今日の留学生向け就職説明会は色々な事が分かりました。今度もまた受けて頑張ります。
丁寧に説明してくれてありがとうございました。
外国人にとってこのような就職説明会が役に立ちます。とても感動しました。ありがとうございました。今後の要望は業態が多ければ多いほど良い。ベトナムと日本の関係会社が良い。
留学生向けに説明会を行っていただきありがとうございます。 今回の説明会の会社数が少なかった。 今度もっと社数を増やして説明会を行っていただければ嬉しいです。
こんな就職説明会は留学生にとってはとても役に立つと思います。自分が興味ある会社を選ぶことができる。色々なことを考えてもらいました。ありがとうございます。
今日の就職説明会でいろいろな会社についてのお話を聞きました。そして就職する方法も教えてもらいました。これは後で役に立つと思います。
今日の留学生向け就職説明会は良かったです。 説明会に参加した後で、日本で不動産会社で就職したいと思っています。
このような説明会があることは外国人のためいいことだと思います。一つの所でいろいろな会社のことを知れたので。今後説明会があったら聞きたいです。
協会のホームページで説明会に参加する企業を事前に知ることが出来たら良かったと思います。
企業の数が増えれば良いと思います。
今回の留学生向けの就職説明会ではホテルに関する企業が少なかったです。
就職したい企業から職務記述書をもらいたい。
就職するために学生はどうすればいいのか、もっと教えてもらえたら良かった。どんなスキルとか、どんな証明書や大学でどんなコースを受けるかなど・・・の詳しい説明。 募集しているジョブポジションの職務内容の紙が欲しい。
時間を長くしてほしいです。
機械とか電子を入れて欲しい。
今日の留学生向けはうれしかったです。留学生のためにありがとうございます。 本当に私達は日本で就職したいです。
今日の留学生向け就職説明会で、就職するのがなかなか難しいと思いました。
自分より優秀な人が多すぎるので、今から一生懸命に勉強します。
今日は色々なお話を聞いて頂いて、来てよかったと思います。
就職のため役に立ちました。色々なお話を聞いてもっとやる気が出てきました。
知りたい職種があるので満足だと思います。もしあとの会社の不動産の説明会があればメールで教えていただけませんか。
コンピュータの勉強に関する会社が少なかった。次は多く来てほしい。
今日の就職説明会に参加してたくさんのことを学びました。 今後も行われる就職説明会には参加していきたいと思っています。
丁寧に説明してくれてありがとうございました。
色々話を聞きました。将来は絶対役に立つだろう。
会社の数が少ないのもっと集めた方がいいと思います。
色々な分からないことを教えてくれたので、まずありがとうございました。会社の説明を聞いてから自分に合っているかどうかそれを確認することが出来ました。
うれしくて仕事をしようと思いました。
留学生向け就職説明会で色々な話を聞けたので、来年卒業したら就職するのが楽になりました。
就職のため役に立ちました。色々なお話を聞いてもっとやる気が出てきました。
就職のため役に立つと思います。
今日の留学生向け就職説明会では色々な事が分かりました。
どの会社がどのようにやっているかを知ることが出来ました。

第6章 今年度事業の取り組みによる成果と今後の展望

1. 今年度の取り組み成果

広報部会の中国の専門学校との包括提携、教育コンテンツ部会の教材の制作、生活支援部会の研修会と相談窓口の設置、就労・定着支援部会の留学生就職説明会の開催は、予定どおり完結し、一定の成果を得たものと思われる。その一方で課題も見つかったが、それらは今後の課題としたい。

2. 今年度事業を振り返って

(1) 東アジアの教育機関との連携について

広報部会の取り組みで中国の専門学校と包括提携ができたことは大きな成果であった。しかし、日本の教育機関が4月入学に対して、海外の教育機関は秋入学となっており、編入学を考えると単位互換も含めて多くの課題がある。今回は委託期間が短いこともあり、十分な調査研究ができなかった。次年度以降は十分な議論をしながら進めたい。

(2) 教育コンテンツの開発について

平成29年度事業においては、外国人留学生在が日本に留学する上での課題、受入側である日本の教育機関が留学生を受け入れる際の抱える課題の整理を行い、教育コンテンツのコンセプト設計及びアウトラインの作成を行った。また、中国の現地教育機関を視察し、インターネット環境等のインフラの確認及び教員や学生へのヒアリングを行ったところ、E-Learningを受講する環境は整っていることが確認できた。また実際に導入予定のシステムを現地の教員に試用してもらったところ、インターフェースが分かりやすく画面遷移もスムーズに動作したことから、本格導入しても問題ないとの感触を得た。

また、今年度検討を重ね教育コンテンツを搭載予定の学習システム「CoreLearn」は、我が国の小学校等の教育機関や民間企業の研修教育において多数の導入実績があり、今後留学前教育から就職支援教育を実施するうえで最も適したシステムであると判断した。一般的なE-Learningシステムでは、完全理解ではなく8割の理解度でも合格してしまう可能性や一度全部間違えて答えのメモを取るなどして合格できる点、分からない点があればあやふやなまま放置できる点があった。本システムの特長は、本質的な理解促進と効率的な反復学習を強みとしており、全問正解を目指す「知識習得」と一定間隔において問題を解き、毎回全問正解を目指す「知識定着」を可能にする。

本事業の最終目標である、学生及び専修学校のそれぞれが、日本で学ぶにあたって語学力・異文化理解への理解進度を把握することで、来日後の教育がより有意義に進み、教育機関においても学生毎に不足しているスキルが事前に把握できるコンテンツを提供する上で、本システムは最も適していると結論付けた。

今後の展開としては、増加する外国人留学生在を日本において就職まで結び付けられるよ

うに、まずは留学前の導入教育において我が国の生活環境や文化及びマナーを理解し、学生がスムーズに留学生生活を営み、受入側である教育機関も留学予定者のサポートを事前に行い留学後の学習効果がこれまで以上に高められる仕組みを作っていきたい。そのために今年度のコンセプトをもとに問題作成を行い、留学前の導入教育がスタンダードになり得るような仕組みの構築を検討していきたい。また、就職支援コンテンツにおいても今後検討を行い、専門的な知識を習得し、日本で働く目的を持った学生が増えるように、次年度以降はより教育機関と民間企業が一体となって留学生を支える仕組みを構築していきたい。

3. 今後の展望

委託事業の活動期間が極めて短く、その中で一定の成果を創出しなければならなかったため、特に中国の教育機関との交渉業者選定については選択の時間的猶予がなかった。そのため、必ずしも当方の満足できるレベルには到底及ばず、特にコミュニケーションが十分図ることができなかった。

一方で、コミュニケーションを図るために膨大な時間が割かれ、福専各の他の業務に支障をきたし始めたため、来年度に向けて取り組みを継続することが困難となった。

来年度は福専各としてもう一度留学生支援事業をゼロベースから組み立て直し、再来年に向けた取り組みの準備期間として位置付けたい。

具体的には、留学生委員会で今年度の取り組みの総括を実施するとともに、下部組織として、新たに実務者によるワーキングチームを作り、留学生支援事業の取り組みを一から作り直す。

おわりに
～実施報告書の巻末に寄せて～

わが国の専修学校に在籍する外国人留学生は近年急増しており、グローバル化に対応した外国人材育成が喫緊の課題であると思われる。

そのためには専修学校全体として、留学生の円滑な受け入れと就職サポートも含めたより質の高い教育体制の整備が求められる。

本事業ではわが国にとって最も身近で、しかも来訪者数の多い3か国にターゲットを絞り、それらの国々の優秀な外国人留学生を掘り起こし、日本語教育支援や就労支援を戦略的に進めていくことをひとつの枠組みとして捉えてみることにした。具体的には中国の教育機関との包括提携をモデルケースとして、将来的には他校あるいは他国の教育機関にも横展開できるような仕組みを構築した。また、日本語教育については海外の教育機関が実際の教育現場で活用できるような仕組みを作り上げた。

一方、海外の教育制度と我が国の教育制度には大きな違いがあり、優秀な外国人留学生を今後とも継続して呼び込むためには、これらの整備改善も急ぐ必要があると思われる。これについては関係機関と引き続き連携を深め進めていきたいと思う。

今後18歳人口が減少の一途をたどる中、優秀な外国人留学生を招き入れ国内で育成することが、わが国に活力を与え、しかも有益なことであると確信している。来年度以降も本事業を継続して受託できれば、事業内容をさらに充実させ、全国の専修学校の先駆けとなる仕組みを完成したいと思う。

最後に本事業の推進にあたって、文部科学省、全国専修学校各種学校総連合会、福岡県、県内専修学校・各種学校ほか様々な皆様から多大なるご支援・ご協力をいただいたことを心からお礼申し上げます。

平成30年3月

一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会 事務局長 三大寺 秀豊

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	実施委員会（第1回）
開催日時	平成29年11月30日（木） 12:00～12:50（50分）
場所	福岡ガーデンパレス 3階 阿蘇
出席者	<p>①委員（計15名）</p> <p>中村登（九州英数学館） 渡邊浩令（専門学校コンピュータ教育学院） 亀谷弘幸（学校法人麻生塾） 日野幸一（大原昴自動車・スポーツ専門学校） 赤坂賢司（専門学校東京国際ビジネスカレッジ） 鮫島重喜（専門学校共生館国際福祉医療カレッジ） 山本重春（専門学校九州スクールオブビジネス） 藤田祐子（専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ） 宮田智栄（専門学校国際貢献専門大学校） 山本寛（福岡外語専門学校） 水上美紀（福岡国土建設専門学校） 伊東望（福岡県雇用対策協会） 進藤千尋（桜交流企画） 財津香壽子（キャリア・サポート・オフィス一歩） 立崎和寿（九州経済連合会）＊代理</p> <p>②オブザーバー（計10名）</p> <p>清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC） 張琳・張露（ジャパンテックリンク株式会社／JTL） 高博昭・福島慎吾（凸版印刷株式会社） 千葉克彦・原幸春・倉橋泰彦（株式会社レオパレス21） 弟子丸梓・山本奈津希（JSW株式会社）</p> <p>③事務局（計2名）</p> <p>三大寺秀豊・野口敏美</p> <p>（参加者合計27名）</p>

<p>議題等</p>	<p>(1) 一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 留学生委員長挨拶 中村委員長</p> <p>(2) 議題</p> <p>①実施委員会委員および支援企業紹介</p> <p>②事業概要と役割分担について</p> <p>③留学生担当教職員研修会の運営について</p> <p>主な発言内容と結論は以下のとおり。</p> <p>①実施委員会委員および支援企業紹介 第1回目の開催につき、全員自己紹介を行った。</p> <p>②事業概要と役割分担について 事務局より文部科学省へ提出した事業計画書に基づき、事業概要を説明し、4つの部会の役割とそれぞれの取組について説明した。 質疑応答に入ると、中国の提携校についての問いがあり、事務局より専門学校に相当する「江蘇旅行職業学院」を視察し提携交渉を進めている旨回答した。提携校とはカリキュラムが重複しないよう期間も含めて慎重に交渉を進めていくよう要望された。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------------	--

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	実施委員会（第2回）
開催日時	平成30年2月27日（火） 16:00～17:00（1h）
場所	福岡ガーデンパレス 1階 ガーデンホール
出席者	<p>①委員（計16名）</p> <p>大村陽之介（大村美容ファッション専門学校） 中村登（九州英数学館） 渡邊浩令（専門学校コンピュータ教育学院） 亀谷弘幸（学校法人麻生塾） 日野幸一（大原昴自動車・スポーツ専門学校） 赤坂賢司（専門学校東京国際ビジネスカレッジ） 鮫島重喜（専門学校共生館国際福祉医療カレッジ） 山本重春（専門学校九州スクールオブビジネス） 藤田祐子（専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ） 山本寛（福岡外語専門学校） 水上美紀（福岡国土建設専門学校） 立崎和寿（九州経済連合会） 出水泰輔（福岡商工会議所） 伊東望（福岡県雇用対策協会） 進藤千尋（桜交流企画） 財津香壽子（キャリア・サポート・オフィス一步）</p> <p>②オブザーバー（計5名）</p> <p>大有 洵也 （福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局 私学振興課） 猪股 祐子（福岡県企画・地域振興部国際局国際政策課） 荒巻 久美（福岡県企画・地域振興部国際局国際政策課） 奥原 淳（福岡県企画・地域振興部総合政策課） 高園 英太郎（福岡市総務企画局企画調整部）</p> <p>③事務局（計2名）</p> <p>三大寺秀豊・野口敏美 （参加者合計23名）</p>

<p>議題等</p>	<p>(1) 一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 留学生委員長挨拶 中村委員長</p> <p>(2) 議題 平成29年度事業報告</p> <p>委員長より挨拶を行った後、事務局より本年度の全事業について部会ごとに報告を行った。</p> <p>その後、外部委員より一人ずつ事業に対する意見をいただき、企業関係者からは外国人人材の育成について、行政関係者からは国際政策と協調して進めていただきたい等、多くの期待が寄せられた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------------	---

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	広報部会（第1回）
開催日時	平成29年12月15日（金） 13:00～14:00（1h）
場所	九州英数学館
出席者	<p>①委員（計4名）</p> <p>中村登（九州英数学館） 亀谷弘幸（学校法人麻生塾） 赤坂賢司（専門学校東京国際ビジネスカレッジ） 山本重春（専門学校九州スクールオブビジネス）</p> <p>②オブザーバー（計1名）</p> <p>清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC）</p> <p>③事務局（計2名）</p> <p>三大寺秀豊・野口敏美 （参加者合計7名）</p>
議題等	<p>1. 現地校からの学生受け入れに向けて</p> <p>委員長の挨拶の後、事務局より、これまでの中国側との交渉の経緯を説明し、質疑応答した。</p> <p>主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国と日本との単位互換について不明確であるため、事務局が文部科学省へ問い合わせる。 ・福岡の専門学校では秋入学は実施していないため、事業計画書に記載していた10月入学は4月入学へ改める。 ・受入れた留学生を短期間で就職までどう教育するか議論し、レベルに応じたモデルコースを複数、構築することとした。 ・江蘇旅行職業学院と交わす意向書の内容について確認し、承認された。 <p style="text-align: right;">以上</p>

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	広報部会（第2回）
開催日時	平成30年1月19日（金） 15:00～16:00（1h）
場所	九州英数学館
出席者	<p>①委員（計3名） 中村登（九州英数学館） 亀谷弘幸（学校法人麻生塾） 山本重春（専門学校九州スクールオブビジネス）</p> <p>②オブザーバー（計1名） 清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC）</p> <p>③事務局（計2名） 三大寺秀豊・野口敏美</p> <p>（参加者合計6名）</p>
議題等	<p>1. 現地校からの学生受け入れに向けて 委員長の挨拶の後、事務局より、前回の懸案事項について、調査の結果を報告し、今後の運営について協議した。 主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国と日本との単位互換については、事務局の調査で、「高等教育の承認に関するアジア太平洋地域規約」（東京規約）へ日本が加盟したことにより、中国との単位互換が容易になるかもしれないことを報告。この動きを注視しながら進める。 ・留学生のレベルに応じたモデルについては、諸条件をクリアしたコースを1種提案。各方面からの要望を聞きながら、他のモデルケースも順次追加していく。 <p style="text-align: right;">以上</p>

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	広報部会（第3回）
開催日時	平成30年2月7日（水） 15:00～16:00（1h）
場所	九州英数学館
出席者	<p>①委員（計3名） 中村登（九州英数学館） 渡邊浩令（専門学校コンピュータ教育学院） 亀谷弘幸（学校法人麻生塾）</p> <p>②オブザーバー（計1名） 清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC）</p> <p>③事務局（計2名） 三大寺秀豊・野口敏美</p> <p>（参加者合計6名）</p>
議題等	<p>1. 中国現地教育機関視察訪問について</p> <p>委員長の挨拶の後、事務局より中国訪問の目的と日程について説明した。広報部会の専門学校を中心に5校を選抜し、揚州市の4校を訪問して、日本の専門学校教育についてプレゼンテーションを行う打合せを行った。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

会議議事録

事業名	平成 29 年度「専修学校版グローバル化対応推進支援」事業
代表校	福岡県専修学校各種学校協会

会議名	教育コンテンツ部会(第1回)
開催日時	平成29年11月30日(木) 10:30~11:30(1h)
場所	福岡ガーデンパレス 3階 阿蘇
出席者	<p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田祐子(専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ) ・山本寛 (福岡外語専門学校) ・財津香壽子(キャリアサポート・オフィス一步) <p>②オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清崎昭紀(福岡地域戦略推進協議会) ・張琳 ・張露(以上、ジャパンテックリンク) ・渡辺隼也 ・高田大嗣 ・福井千尋(以上、凸版印刷) <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大寺秀豊 ・野口敏美(以上、福岡県専修学校各種学校協会) <p>(参加者合計11名)</p>
議題等	<p><配布資料></p> <p>第1回 教育コンテンツ部会 検討資料(2017/11/30)</p> <p><議事内容></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 今後の進め方(スケジュール)の共有・確認 (2) 教育コンテンツのアウトライン作成にあたり、コンセプト(方針)の確認 (3) 教育コンテンツ内容(大項目)の確認 (4) 今回導入するシステム(コアラーン)の概要説明

以上

※主な討議内容は以下の通り

<議事内容>

(1) 今後の進め方(スケジュール)の共有・確認

凸版)12/19-22 中国視察について

学びの状況、システムの状況のヒアリングを中心に実施する

(2) 教育コンテンツ作成にあたり、コンセプト(方針)の確認

凸版)資料に沿って説明実施

(3) 問題集作成にあたり、方向性の確認

■日本の文化、税制度、保険の仕組み等

- ・文化について、精神文化、伝統文化と分かり易く分けたほうが良い。
- ・社会インフラ、健康保険の仕組み、保険料・住民税等を支払う認識がない。
- ・お金がない学生が病院にかかる際にサポートしてくれる病院がいくつかある。
- ・医療費を免除してくれる病院等の存在も盛り込むべきか。(千鳥橋病院など)
- ・アルバイトは可能な場合、その収入に対して、一定金額を超えると納税額が増えることを周知しておくべきではないか。
- ・日本の税金の仕組みが良くわからない。
- ・どこにどのように申請したらよいかわからない。という声が多い。
- ・登録作業はすべて済ませるなどの、サポートが必要と考えている。
- ・年金制度などもよく知らなかった。留学生は年金納付制度を知らない。
- ・年金、国民医療保険、税金などの手続きも事前に知っておくとよい

■就労ビザ関連

- ・学校選択をしているため、卒業後の就労ビザが取れないということがある。
- ・学校に入る前に決めておく事だが、実体としては学校入学後に分かってしまい、卒業後に再度別の学校に行くこともある。
- ・観光の学校だと、観光系の会社にしか就労ビザが許可されないということがある。
- ・例えばコンビニなどでの観光分野以外の就職先では就労ビザが取れない。
- ・就職先を先に見せて、学校選択をさせることが重要

■中国側から見た日本について

- ・今回の問題(コンテンツ)には日本の良さを理解して欲しいと思っている。
- ・日本は、清潔感、時間を守る、など素敵などところがある。これらは留学生のモチベーションに繋がると考えている
- ・歴史なども必要。観光ガイドなどを実施する際に、知っておく事は重要。
- ・神社の作法もわからないこともあった。神社とお寺の違いなども重要。
- ・例えば日本の江戸時代、中国ではどのようなことがあったかなど、日本と中国の歴史を知っておくことも観光分野で働く上では大切なことと考える

■ 学校生活の注意点やマナーについて

- ・学校生活で気を付けるべきこと、マナーなどあれば教えて欲しい
- ・基本的には、出席することが大切。
- ・単位の取り方、大学みたいに好きに休むというような活動ではない。
- ・1日のスケジュールが埋まっている、ということを実は知らない。
- ・単位制もあるが、学年生が主流。1年間で実施することで単位が取れるというイメージ。
- ・高専も同様。学校のスケジュール通りに活動することが重要。
- ・学校を優先するとアルバイト時間も限られることもある。つまり、授業料等お金のこともつながる。
- ・学校ごとに、時間の過密状況も違う。
- ・どの学校も出席することが重要。出席しないと、卒業できず、進路の選択ができないということもある。
- ・1年生の終わりの3月から就職試験が始まるため、1年目の成績と出席率と資格が重要
- ・年間のスケジュール、活動内容などを伝えることが重要。

■ 問題のテーマ構成まとめ

- ・問題構成について、指摘頂いた日本社会の仕組みなどを追加するが、その他に関しては資料記載の大項目の方向性で問題無い。

(4) 今回導入するシステム(コアラーン)の概要説明

- ・小学校の算数などで使われている。
- ・中国での使われ方として、このシステムが教材のすべてではなく教材の一部という認識のため、他の部分は全体でフォローが必要

会議議事録

事業名	平成 29 年度「専修学校版グローバル化対応推進支援」事業
代表校	福岡県専修学校各種学校協会

会議名	教育コンテンツ部会(第2回)
開催日時	平成29年12月7日(木) 14:00～15:30(1.5h)
場所	凸版印刷株式会社 会議室
出席者	①委員 ・藤田祐子(専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ) ・山本寛(福岡外語専門学校) 委員計2名 ②オブザーバー ・渡辺隼也 ・高田大嗣 ・福井千尋 ・福島慎吾(以上、凸版印刷) オブザーバー計4名 (参加者合計6名)
議題等	<配布資料> 第2回 教育コンテンツ部会 問題構成資料(2017/12/7) <議事内容> (1) 第一回実施の大項目検討内容の確認・共有 (2) 教育コンテンツ内容(中項目)の確認 ⇒配布資料に沿って打合せ実施 ⇒学びの項目について、教育コンテンツ部会として、重要度を3段階で分類実施した(A、重要 B、確認 C、紹介)。 (3) 12月中国視察時の確認事項について

以上

※主な討議内容は以下の通り

<議事内容>

(1) 第一回実施の大項目検討内容の確認・共有

・大項目順番については、実生活、文化やマナーのこと、二つに分けたほうがよさそうだ。

- ・バスの乗り方、電車の乗り方はなど実生活で困ることであり、留学生が日本で生活する上で知りたいことではないか
- ・一般的なビジネスマナーについては、就職前の学生には身に入っていないのが現状。重要なのは就職活動でのマナー(面接で部屋の入り方など)が本当に学生にとって必要なことではないか。

(2) 教育コンテンツ内容(中項目)の確認

- ・今回のコアラーンを使用頂く対象者は日本に留学することが決まっている人が対象と聞いている。
- ・分類目的としては大きく2つある。1つが、12月19日から実施する中国視察で教育コンテンツ部会として、知識習得し来日して欲しいという意思表示の指標として分類する。2つ目は、今後コンテンツ作成していく上で、3段階評価の重要度に応じて、必要問題数の設定を行っていく為である

【日本について】

- ・贈答の習慣なども伝えてはどうか。近い文化だと思いが微妙に認識が違うこともある
- ・地域については伝えておいた方が良い。風習や方言は重要度下げても良い。
- ・日本語学校としては、方言を教える前に、標準語をしっかり学ぶことを優先したい。
- ・服装などは一般的に模範となるものが問題となるだろう
- ・中国の方は面接時にスーツ着用等、理解している内容もある。
- ・学校の服装などは学校毎でルールがあったりするので一般的な内容として扱うべき
- ・補足部分に関しては、解説画面で説明することも可能である。
- ・一般的な和食のマナーでよいだろう
- ・冠婚葬祭について、宗教に触れない程度に注意することが重要だろう。但し、留学生が専門学校入学後2年間で冠婚葬祭に触れるシーンは少ないのでは。

【留学生生活について】

- ・困ったときの相談窓口は領事館などもあるだろう。留学生サポート施設を伝えるべき
- ・どのような教育機関から来たのかによってサポートの仕方も異なる
- ・各経路での共通項目を問題とするのが良いだろう
- ・卒業後の進路も、問題というよりは確認というような内容になるだろう
- ・困ったときの相談窓口は110番や119番など生活する上で必要なことも教えるべき
- ・宿題の量については、専門学校についてばらつきがある。
- ・学校生活以外のシーンの“心構え”として伝えておきたい。
- ・専門学校のため、資格試験のスケジュールで追われている。語学+専門分野ごとスキル+学校内/外の資格などが多い。
- ・資格の種類や一般の人も受験できる資格試験などの情報は伝えてもよいだろう
- ・暮らしのマナーは銀行、役所の追加が必要

- ・これらの内容は授業でも教える機会がないので重要
- ・来日 1 日目から関わる内容であるため、事前に知識として持っておく必要がある。
- ・設問も就職活動を意識した問題を検討する
- ・観光業の幅をある程度見せてあげたほうが良いのではないか

【福岡について】

- ・留学生の興味を引くようなものになるだろう
- ・福岡県庁、といった個別の場所などまでは細かく伝える必要はないだろう
- ・各地域やエリアの距離感を伝えてはどうか福岡市内については自転車での目安時間があるとよいかもしれない。留学生は自転車を使う。
- ・福岡の魅力を伝える為に、人口が増えている点や、地域の特徴も盛り込んだ方が良さそう。
- ・福岡の魅力をいかに伝えていくのかが重要ではないか。
- ・福岡のインバウンドが増えており、観光業も盛んになっている。
- ・福岡のことを PR することとして捉えた方がよい。
- ・方言については省いて頂き、まずは標準語を習得してほしい

(3) 12 月中国視察時の確認事項について

- ・対象となる現地の学校がどこまで日本のことを教えていて知っているのか。
- ・日本語についてもネイティブの先生がどの程度いるのかなども分かると良い

会議議事録

事業名	平成 29 年度「専修学校版グローバル化対応推進支援」事業
代表校	福岡県専修学校各種学校協会

会議名	教育コンテンツ部会(第3回)
開催日時	平成29年12月13日(水) 14:00～15:00(1.0h)
場所	凸版印刷株式会社 会議室
出席者	<p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田祐子(専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ) ・山本寛 (福岡外語専門学校) ・財津香壽子(キャリアサポート・オフィス一步) <p>②オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡辺隼也 ・高田大嗣 ・福井千尋 ・福島慎吾(以上、凸版印刷) <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野口敏美 ・高尾百合恵(以上、福岡県専修学校各種学校協会) <p>(参加者合計9名)</p>
議題等	<p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地視察資料(コンテンツ編)(2017/12/8) ・現地視察資料(システム)(2017/12/4) ・CoreLearn 搭載予定の問題リスト <p><議事内容></p> <p>(1)第2回教育コンテンツ部会内容反映資料の共有・確認</p> <p>(2)現地視察にて確認すべき事項の共有及び討議</p> <p>⇒配布資料に沿って確認共有実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ(学び)について ・システムについて

以上

※主な討議内容は以下の通り

<議事内容>

(2) 現地視察にて確認すべき事項の共有及び討議

⇒配布資料に沿って確認共有実施

【コンテンツ編】

■受講対象者の確認について

- ・学生ではなく、受け入れ側の学校もしくは学科、コースによって、N2でも難しい場合がある。
- ・試験問題を作り、事前にレベル判定を行う話が出ていたので、今後詰める必要があると考えている。
- ・各専門学校においても学生のレベルはかなりの違いがある。
- ・確かにN2に合格していても個人差は大きく、全員問題ないとは言えない。
- ・N2レベル以上という条件は下げずに、現地にて話を進めたい。
- ・現地では、コミュニケーションが大事な分野なので会話力を確認したい。
- ・ペーパーテストはできるが、面接練習時に日本語が伝わっていないこともある。観光業を加味して、コミュニケーション力を注視してみしてほしいと考えている

■受講対象者の受講環境の確認について

- ・コンテンツについては、活用いただく環境と指導できる先生が現地にいるかどうか確認が必要。受講後のフォロー含め先方の教育体制の確認も必要だと感じる。
- ・CoreLearnの問題のレベルも、N2レベルに合わせる等配慮が必要ではないか。フリガナ等ルビを振るなど工夫をしたい。
- ・CoreLearnはテストではなくドリルなので、ご指摘の内容含めできる限り学習者に伝わる内容にしたいと考えている。

- ・既存のN2の問題集でも難しい問題もあり、コンテンツ作りの際配慮が必要。

■問題コンテンツの確認について

- ・問題のサンプルを先方に提示できるとレベル感が確認できるのではないか。
- ・今回は間に合わない為、帰国後現地の方とメール等のやり取りで表現や文言について確認を行っていく。

【システム編】

■ヒアリングについて

・動作環境について

⇒端末、ネットワーク、その他機能を現地環境にて確認 ※配布資料参照

【その他】

- ・全体の問題量も含め検討が必要。
- ・現地の授業や宿題など利用シーンに合わせて検討が必要だと考えている。

- ・中国全体では 1000 万人が日本語を勉強している。
- ・モデル校に絞ってコンテンツを作ると他校への展開が難しくなる可能性があるため、幅広く活用可能なように検討を進めたい。
- ・カスタマイズをしすぎるとコスト面も嵩み、柔軟性がなくなるため、幅広く展開可能なコンテンツ作りを目指していきたい。
- ・重要度については、問題作成完了後、全体を見て重要度が低い順から削除できるように事前に順番を決めた。
- ・問題数が多いと、飽きの問題も出てくるため調整が必要だと考える。事業終了後も幅広く活用可能な展開を考えたい。

会議議事録

事業名	平成 29 年度「専修学校版グローバル化対応推進支援」事業
代表校	福岡県専修学校各種学校協会

会議名	教育コンテンツ部会(第4回)
開催日時	平成30年1月9日(火) 14:00～16:00(2.0h)
場所	凸版印刷株式会社 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田祐子(専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ) ・山本寛 (福岡外語専門学校) ・財津香壽子(キャリアサポート・オフィス一步) <p>②オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡辺隼也 ・高田大嗣 ・福井千尋 ・福島慎吾(以上、凸版印刷) <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大寺秀豊 ・野口敏美(以上、福岡県専修学校各種学校協会) <p>(参加者合計9名)</p>
議題等	<p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地視察報告資料(コンテンツ編)(2017/12/8) ・留学生受け入れモデル案 ・教育コンテンツ部会の運営について <p><議事内容></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現地視察の目的 (2) スケジュール (3) 訪問先と状況報告 (4) 視察結果を踏まえた総括 (5) 今後のコンテンツ検討の進め方について

以上

※主な討議内容は以下の通り

<議事内容>

【提携先について】

- ・蘇州旅行技術学院がメインの提携先になる。
- ・当校は今後日本語教育についても力を入れるという認識を持っている。

【日本語教育のサポートについて】

- ・海外から留学する場合は、N2取得が必須となる。
- ・提携しようとしている蘇州旅行技術学院は、基本的には現地のフォローで対応しようと思っている。日本語教育のコンテンツがなくても、問題ないと判断。
- ・今回搭載予定の学習システムは、学んだことをさらに理解を深める上で有用
- ・N2レベルを取得する点に関しては、各国で学んで来なければならない。日本語教育が遅れているという事実については、中国の学校側で対応いただく必要があるだろう。本事業の趣旨からも日本語N2レベルを習得しているという前提で考えていく必要がある。
- ・日本語教育のサポートについては、例えば福岡の日本語学校から日本語教師を1名派遣する等の交流により現地との縁ができる。ただ、日本語教師が足りていないのが現実で、実現には高いハードルがある。
- ・日本語学習は基本的に現地学校でのサポートが必要であり、そこまで踏み込む必要はないだろう。

【研修旅行について】

- ・修学旅行で日本に来る機会があるのであれば日本語学校、専門学校にも立ち寄ってもらえれば学校を知ってもらえる良い機会になる。

【コンテンツについて】

- ・コンパクトで住みやすい街、魅力的な街であることをPRするコンテンツにしたい。
- ・留学生がターゲットになってくる中で、このコンテンツの最大の目的は「福岡に留学をしてもらうこと」「福岡に就職してもらうこと」なので、もし日本語習熟度が低いようであれば中国語や韓国語の翻訳版があってもいいのかも知れない。
- ・今後のターゲットは中国の中でも移住者が増える可能性のある香港や親日の台湾や韓国などターゲット設定に関しても再度検討する必要がある。
- ・東京や大阪しか知らない学生たちに、いかに「福岡」を伝えるのかもポイント。
- ・学習すればするほど福岡に行ってみたくなるようなコンテンツ作成を目指したい
- ・課題は「日本に就職したい」という現地学生が少ないという点。その部分をもっとフォローできるコンテンツづくりが必要。

【現地提携校について】

- ・揚州旅行技術学院については想定よりも1年遅く、2020年のN2試験合格を目指す想定になる可能性がある。
- ・日本語学科を持つ学校を探す必要があるのではないか

【過去ギャンブル、風俗などについて】

- ・現状、留学生がパチンコなどギャンブルでトラブルになることはあまりないと
- ・それより交通ルールなど生活面でのルールが身につけていないことによるトラブルが多い。たとえば地下街などでのキャッチセールスの危うさやクレジットカードを簡単に作るべきではないなどの注意喚起が必要。

■決定事項■

- ・「福岡」を好きになってもらえるようなコンテンツづくりを行う。
- ・日本語学習については、搭載しない
- ・ギャンブル・風俗に関しては、一旦決定は保留とするが、積極的に掲載していく事は無いとの認識で一致

会議議事録

事業名	平成 29 年度「専修学校版グローバル化対応推進支援」事業
代表校	福岡県専修学校各種学校協会

会議名	教育コンテンツ部会(第 5 回)
開催日時	平成30年 2 月 2 日(金) 14:00～16:00(2.0h)
場所	凸版印刷株式会社 会議室
出席者	<p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田祐子(専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ) ・山本寛 (福岡外語専門学校) ・財津香壽子(キャリアサポート・オフィス一步) <p>②オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡辺隼也 ・高田大嗣 ・福井千尋 ・福島慎吾(以上、凸版印刷) <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大寺秀豊 ・野口敏美(以上、福岡県専修学校各種学校協会) <p>(参加者合計 9 名)</p>
議題等	<p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 5 回教育コンテンツ部会(2018/2/2) ・問題リスト <p><議事内容></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) コンセプトの再確認 (2) 本コンテンツの問題解答における評価基準 (3) システムの利用イメージと出題形式 (4) 問題の項目と数量について

以上

※主な討議内容は以下の通り

<議事内容>

【問題数量について】

・1日30分勉強し、1問あたり解答時間1分と仮定し、1日30問、1ヵ月で約20日勉強し600問程度を解答、反復学習で3周して3ヵ月程度の問題数量とした。

【問題解答における評価基準】

- ・日本語の授業は、現地にて授業を行っている想定。
- ・受講者各自で進度は変わると想定。

【システムの利用イメージと出題形式】

- ・先生が管理者画面で進捗確認も可能。
- ・個別の学習状況確認も可能。
- ・管理画面や問題解答のタイミング、どう教えるかは現地に任せる。
- ・受講者は日本語検定N2レベルを想定している。

【問題の項目と数量について】

- ・問題リストは授業にも組み込めるような内容も検討していきたい。
- ・本問題の解説本もあり、リーフレットのような先生向け冊子もあったほうがよい。
- ・N2レベルの表現の監修は、有識者を交えて検討したい。
- ・日本にいる留学生を活用してテストも必要だと考える。

【その他】

- ・今後専門学校の先生を現地でPRする機会も考えているので、どこかのタイミングでデモも現地の学生、先生にしていきたい。
- ・現地の学生の募集時、日本側の専門学校と現地学生の面談はスカイプで行う想定をしている。
- ・中国だけでなく、韓国も同時並行で進めて留学生を集める必要がある。

会議議事録

事業名	平成 29 年度「専修学校版グローバル化対応推進支援」事業
代表校	福岡県専修学校各種学校協会

会議名	教育コンテンツ部会(第6回)
開催日時	平成30年2月15日(木) 14:00～15:00(1.0h)
場所	凸版印刷株式会社 会議室
出席者	① 委員 ・藤田祐子(専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ) ・山本寛 (福岡外語専門学校) ② オブザーバー ・高田大嗣 ・福井千尋(以上、凸版印刷) ・清崎昭紀(福岡地域戦略推進協議会) ③ 事務局 ・三大寺秀豊 ・野口敏美(以上、福岡県専修学校各種学校協会) (参加者合計7名)
議題等	<配布資料> ・報告書:第3章 教育コンテンツ部会の取り組み ・報告書:第6章 2.教育コンテンツの開発について <議事内容> (1) 今年度の内容について振り返り及び残課題の整理

以上

※主な討議内容は以下の通り

<議事内容>

- ・来期は台湾、韓国も見据えた取り組みを想定していく必要がある
- ・e-learning を行う上で、現地の学生の留学までのスケジュールを再度確認して開発スケジュールを組む必要がある。
- ・学習対象者のレベル等は改めて確認をする必要がある。
- ・来期の活動方針も概略で良いのでスケジュールに落とし込む必要がある。

会議議事録

事業名	平成 29 年度「専修学校版グローバル化対応推進支援」事業
代表校	福岡県専修学校各種学校協会

会議名	教育コンテンツ部会(第7回)
開催日時	平成30年2月22日(木) 10:00～11:00(1.0h)
場所	凸版印刷株式会社 会議室
出席者	<p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田祐子(専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ) ・山本寛 (福岡外語専門学校) ・財津香壽子(キャリアサポート・オフィス一歩) <p>② オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡辺隼也 ・高田大嗣 ・福井千尋 ・高崎智実 ・福島慎吾(以上、凸版印刷) <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大寺秀豊 ・野口敏美(以上、福岡県専修学校各種学校協会) <p>(参加者合計 10 名)</p>
議題等	<p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ内容:更新版 ・教育コンテンツスケジュール(案) <p><議事内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的な本年度事業の振り返り ・来期の活動方針について ほか

以上

※主な討議内容は以下の通り

<議事内容>

【本年度の事業の振り返り】

・現状中国ベースで全体案を考えていたが、今後、多言語によるコンテンツ展開を考えると、汎用性を高めるために現状の3項目から中国に関する部分を分割した4項目に分けて進めたい。

【来期の活動方針について】

1、来期のスケジュール(案)について

- ・日本語能力試験は、6月試験、8月発表予定となる。就職説明会は2月ごろから、就職活動は3月ごろからと考えている。
- ・問題作成にあたり、参考テキストがあったほうが問題作成を進行しやすいので、参考資料の提供やアドバイスをいただきたい。
- ・Core Learn に問題を掲載する期間を鑑みると、4月5月頃からは問題作成等を進めていく必要がある。
- ・文科省の事業を来期受託することが前提にはなるが、今年度の実施した内容が無駄にならないよう、スケジュール(案)も留意して進めていきたい。

2、参考テキストについて

- ・観光特区ガイドはかなり、外国人に特化したテキストになっている。地理検定などの問題も参考になると考えている。「福岡検定」などの問題もよいのでは。
- ・すぐに問題作成に取り掛かる体制を構築したいので、アドバイスいただいた参考となるテキストは改めてご相談させていただきたい。
- ・問題パート毎に、利用テキストとの紐づけを行い著作権の課題を解決する必要性。
- ・コンテンツ元については、まずは福岡市など公的機関のホームページなども参考にするのはどうか。その後民間の資料等を活用すると効率が良い。

3、韓国、台湾への展開について

- ・振り返ってみると、現時点では中国とのかかわりの項目、歴史といったコンテンツは必要ないのではないか。特に各国の歴史認識の違いは表現も難しい。本来伝えるべきことは、福岡の魅力であり、細かな内容は日本に来てから勉強していただければ問題ない。それぞれの国に向けての歴史の部分はカットして、福岡の魅力をフォーカスすることに徹する方が良いのではないか。
- ・現状のコンテンツ内容は決定事項ではないので、内容について個別の国の歴史比較については省く方向で進めたい。

- ・交通アクセスについて、福岡と母国とのアクセスのしやすさについてはアジア各国からの交通アクセスなどを地図と所要時間で記載したいと思う。

4、コンテンツ内容にある内容の現状あるテキストについて

- ・専門学校では特に具体的なテキストは無い。教員個人が資料を持っていることもある。オリエンテーションでも、交通ルール、ゴミ出しの話ぐらいしかしていない。健康保険等行政上の手続きなどは、入学前に実際に市役所に連れて行くなどしている。

5、問題作成、出展元の記載について

- ・図表などのテキスト記載データを利用する場合は、参考文献など出典を明記する必要がある。

7、Core Learn の実装デモ体験について

- ・問題作成後、いかに魂を吹き込むかという作業が重要になる。どこかのタイミングで、実際の学生による体験およびフィードバックの意見が欲しい。
- ・校正のタイミングになろうかと思うが、7月～8月にかけて確認機会をいただきたい。

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	生活支援部会（第1回）
開催日時	平成29年11月30日（木） 12:50～13:40（50分）
場所	福岡ガーデンパレス 3階 阿蘇
出席者	<p>①委員（計5名）</p> <p>中村登（九州英数学館） 渡邊浩令（専門学校コンピュータ教育学院） 鮫島重喜（専門学校共生館国際福祉医療カレッジ） 水上美紀（福岡国土建設専門学校） 進藤千尋（桜交流企画）</p> <p>②オブザーバー（計1名）</p> <p>清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC）</p> <p>③事務局（計2名）</p> <p>三大寺秀豊・野口敏美</p> <p>（参加者合計8名）</p>
議題等	<p>1. 留学生担当教職員研修会の運営について</p> <p>午後より開催する研修会運営について、次第、資料、アンケートの確認を行い、役割分担について打合せを行った。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	生活支援部会（第2回）
開催日時	平成29年12月15日（金） 15:00～16:00（1h）
場所	九州英数学館
出席者	<p>①委員（計3名） 中村登（九州英数学館） 鮫島重喜（専門学校共生館国際福祉医療カレッジ） 水上美紀（福岡国土建設専門学校）</p> <p>②オブザーバー（計1名） 清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC）</p> <p>③事務局（計2名） 三大寺秀豊・野口敏美</p> <p>（参加者合計6名）</p>
議題等	<p>1. 留学生担当教職員研修会について</p> <p>事務局より11月30日に開催した研修会のアンケート結果について報告した。在留資格研修は相対的な内容だったため、具体的な事例を求める意見が多かった。行政書士による実務者研修は実例も多く満足度の高い研修となった。</p> <p>次回研修について、年度内に2回の開催を立案していたが、事業のスタートが遅れたため、続けて2月中の開催は厳しいのではないかと意見があり、継続審議とした。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	生活支援部会（第3回）
開催日時	平成30年2月27日（火） 15:00～16:00（1h）
場所	福岡ガーデンパレス 1階 ガーデンホール
出席者	<p>①委員（計5名）</p> <p>中村登（九州英数学館） 渡邊浩令（専門学校コンピュータ教育学院） 鮫島重喜（専門学校共生館国際福祉医療カレッジ） 水上美紀（福岡国土建設専門学校） 進藤千尋（桜交流企画）</p> <p>②事務局（計2名）</p> <p>三大寺秀豊・野口敏美</p> <p>（参加者合計7名）</p>
議題等	<p>1. 今年度の事業成果と次年度への課題について</p> <p>平成29年度事業では2回の研修会を実施予定のところ、委託期間が約3か月と短期だったことにより、1回の実施にとどまったことを報告した。</p> <p>事業を進める途中で、海外の教育機関との単位互換を可能とする「高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約（東京規約）」へ日本が加盟したという情報があり、次年度はこの内容を詳しく知るための調査研究等、新たな企画が提案され、研修会を通して周知していくこととした。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	就労・定着支援部会（第1回）
開催日時	平成29年12月15日（金） 14:00～15:00（1h）
場所	九州英数学館
出席者	①委員（計2名） 中村登（九州英数学館） 日野幸一（大原昴自動車・スポーツ専門学校） ②オブザーバー（計1名） 清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC） ③事務局（計2名） 三大寺秀豊・野口敏美 (参加者合計5名)
議題等	1. 留学生就労ビザについて 事務局より本事業での就職・定着支援部会の役割について説明し、質疑応答を行った。 中国からの留学生が、就労ビザが取れるほどの日本語能力が身につくのか課題があるなかで、学生の語学力に応じたモデル作りを検討していくこととした。 2. 留学生就職説明会開催について 事務局より留学生就職説明会を、平成30年2月5日に開催予定で進めたい旨提案し、質疑応答の後、原案どおり承認された。 以上

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	就労・定着支援部会（第2回）
開催日時	平成30年1月19日（金） 16:00～17:00（1h）
場所	九州英数学館
出席者	①委員（計3名） 中村登（九州英数学館） 日野幸一（大原昴自動車・スポーツ専門学校） 宮田智栄（専門学校国際貢献専門大学校） ②オブザーバー（計1名） 清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC） ③事務局（計2名） 三大寺秀豊・野口敏美 (参加者合計6名)
議題等	1. 留学生就職説明会開催について 平成30年2月5日に開催する留学生就職説明会について、参加企業リストを配付し、専門学校へ最終案内、チラシの校正、当日の企業と留学生へのアンケートの確認、役割分担を行った。 以上

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
代表校	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会

会議名	就労・定着支援部会（第3回）
開催日時	平成30年2月7日（水） 16:00～17:00（1h）
場所	九州英数学館
出席者	<p>①委員（計4名）</p> <p>中村登（九州英数学館）</p> <p>渡邊浩令（専門学校コンピュータ教育学院）</p> <p>日野幸一（大原昴自動車・スポーツ専門学校）</p> <p>宮田智栄（専門学校国際貢献専門大学校）</p> <p>②オブザーバー（計1名）</p> <p>清崎昭紀（福岡地域戦略推進協議会／FDC）</p> <p>③事務局（計2名）</p> <p>三大寺秀豊</p> <p>野口敏美</p> <p>（参加者合計7名）</p>
議題等	<p>1. 留学生就職説明会開催について</p> <p>平成30年2月5日に開催した留学生就職説明会について、事務局より留学生の国別参加状況とアンケートの結果を報告した。次年度開催に向けて協議し、次回も2月上旬が適当であるとの結論となった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会
「平成29年度専修学校グローバル化対応推進支援事業」

各講座（セミナー）アンケート

当調査は当事業の成果等を確認する目的で行い、それ以外では利用しません。アンケートにご協力をお願いいたします。

講座（セミナー）名： 留学生担当教職員・実務者研修

学校名 _____ 男性 女性 国籍 _____

該当項目にチェック☑してください。（请打钩。Please check ☑）

[1] 年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

[2] 当事業の講座（セミナー）はいかがでしたか。

①第1部（在留資格研修 出入国管理行政）

5満足した 4まあまあ満足した 3普通 2あまり満足しなかった 1満足しなかった

②第2部（実務者研修 行政書士指導・実践的ガイドブック活用）

5満足した 4まあまあ満足した 3普通 2あまり満足しなかった 1満足しなかった

[3] 当事業の講座（セミナー）の内容は、今後の活動に対して、役に立つと思いますか？

①第1部（在留資格研修 出入国管理行政）

5役に立つと思う 4まあまあ役に立つと思う 3普通 2あまり役に立たないと思う 1役に立たないと思う

②第2部（実務者研修 行政書士指導・実践的ガイドブック活用）

5役に立つと思う 4まあまあ役に立つと思う 3普通 2あまり役に立たないと思う 1役に立たないと思う

[4] 今後留学生関連の講座（セミナー）で実施してほしい内容は何ですか？（複数回答可）

①留学生関連の就職活動基礎知識 ②就労ビザ・法務知識 ③面接・ビジネスマナー

④留学生政策成功例 ⑤留学生募集についての情報

⑥福岡における留学生の就職実績 ⑦その他

[5] 当講座のご感想やご要望などをご記入ください。

【企業向け】留学生向け就職説明会 アンケート

本日は留学生向け就職説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
当アンケートは事業の成果等を確認する目的で行い、それ以外では利用しません。
アンケートにご協力をお願いいたします。

御社名 _____

[1] 本日の留学生向け就職説明会はいかがでしたか。

満足した	まあまあ満足した	普通	あまり満足しなかった	満足しなかった
<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 1

[2] 本日の留学生向け就職説明会は今後の採用活動に対して、役に立ちましたか？

役に立った	まあまあ役にたった	普通	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 1

[3] 参加学生の感想をお聞かせください

[4] 貴社の訪問学生数は何人でしたか

■ 男 () 人 女 () 人

■ 国別 (中国 人) (韓国 人) (台湾 人)
 (ベトナム 人) (ネパール 人) (その他 人)

[5] 本日の留学生向け就職説明会のご感想や今後のご要望などをご記入ください。

がくせい む りゅうがくせい む しゅうしょくせつめいかい
【学生向け】留学生向け就職説明会アンケート

アンケートにご協力をお願いします。

がっこうめい
学校名

だんせい
男性

じょせい
女性

こくせき
国籍

あてはまるところにチェック☑してください。(请打钩。Please check ☑)

[1] ねんれい 年齢 □ ~20歳 □ 21歳~30歳 □ 31歳~40歳 □ 41歳~

[2] そつぎょう 卒業 (予定) 年 □ 2017年以前 □ 2018年 □ 2019年 □ 2020年以降

[3] きょう りゅうがくせい む しゅうしょくせつめいかい こんご しゅうしょくかつどう やく た おも
今日の留学生向け就職説明会は今後の就職活動に役に立つと思いますか？

やく た おも
役に立つと思う

□ 5

やく た おも
まあまあ役に立つと思う

□ 4

ふつう
普通

□ 3

やく た おも
あまり役に立たないと思う

□ 2

やく た おも
役に立たないと思う

□ 1

[4] ① きょう りゅうがくせい む しゅうしょくせつめいかい なんしゃ せつめい き
今日の留学生向け就職説明会で何社の説明を聞かれましたか。

□ 1社

□ 2社

□ 3社

□ 4社

□ 5社以上

② せつめい き きぎょうめい
説明を聞かれた企業名をおしえてください。ブース番号でもかまいません。

れい
例：レオパレス21 または (番号)

[5] きょう りゅうがくせい む しゅうしょくせつめいかい なか しゅうしょく きぎょう
今日の留学生向け就職説明会の中で、就職したい企業はありますか？

かいしゃめい きにゆう
会社名をご記入ください。

[6] きょう りゅうがくせい む しゅうしょくせつめいかい かんそう こんご ようぼう きにゆう
今日の留学生向け就職説明会のご感想や今後のご要望などをご記入ください。

文部科学省委託事業「専修学校グローバル化推進事業」

日本への留学に関するアンケート

(1) あなたについて教えてください。

学部・学科・コース：	学年：	性別： <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
第一外国語： <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> フランス語 <input type="checkbox"/> ドイツ語 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
第二外国語： <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> フランス語 <input type="checkbox"/> ドイツ語 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
いま考えている進路： <input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 国内への進学 <input type="checkbox"/> 海外への進学 <input type="checkbox"/> 留学 <input type="checkbox"/> 決まっていない		

(2) 今日の説明会に参加した理由は何ですか。(当てはまるものに○)

- 1.日本に関心がある 2.留学に関心がある 3.日本語を履修している
4.将来を考える参考にしたい 5.友達に誘われた 6.その他

(3) 日本・福岡のことを知っていましたか。(当てはまるものに○)

- 1.行ったことがある 2.聞いたことがある 3.初めて知った

(4) 日本・福岡留学説明会の内容は理解できましたか。(ひとつにレ)

- 理解できた 少し理解できた あまり理解できない 理解できない

(5) あなたが留学を考える時、何を基準に判断しますか。(当てはまるものに○)

- 1.有名な学校 2.教育の内容 3.学費
4.日本で就職できるか 5.学校のある場所 6.親の意見
7.その他（ ） 8.わからない

(6) 今日の説明を聞いて日本への留学に関心を持ちましたか。(当てはまるものに○)

- 1.日本へ留学したい 2.福岡へ留学したい 3.今日の学校へ留学したい
4.留学に興味があった 5.留学は考えていない 6.その他（ ）
7.わからない

(7) 将来の希望職種はなんですか。(当てはまるものに○)

- 1.貿易 2.製造業 3.金融業
4.観光業（代理店） 5.宿泊業（ホテル） 6.飲食業
7.運輸業 8.その他（ ） 9.わからない

(8) 福岡への留学に関する意見、質問があれば自由に記載してください。